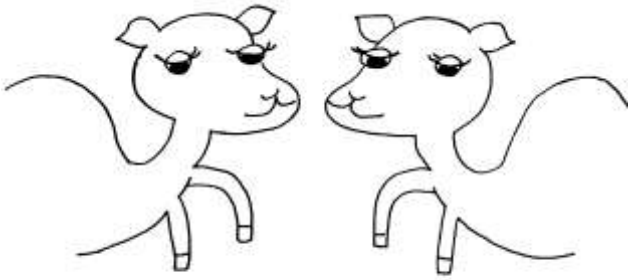
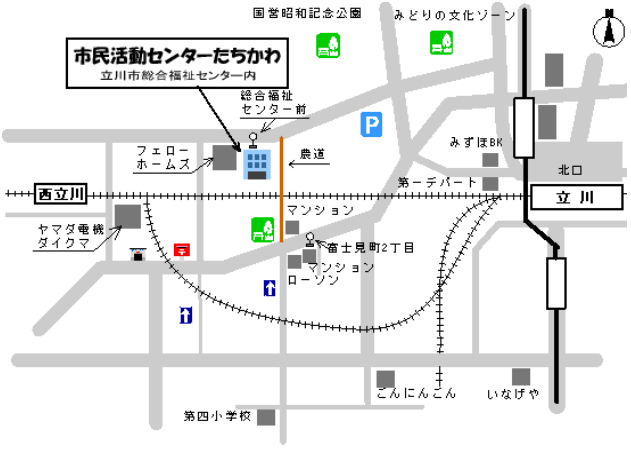
平成23（2011）年度

市民活動センターたちかわ
事業報告



市民社会を拓きたい



◆問合せ◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわ

〒190-0013　立川市富士見町 2-36-47

TEL:042-529-8323　FAX:042-548-1724

E-mail　aiaivc@whi.m-net.ne.jp

http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/

（月）-（金）8:30-19:00

（土）　8:30-17:00

※（日）・祝日はお休みです

目　　次

■はじめに ---------- 2

■1 章　市民活動センターたちかわとは

Ⅰ.市民活動センターたちかわの使命と基本方針 ---------- 3
Ⅱ.立川のまちの特性 ---------- 3
Ⅲ.市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」---------- 4
Ⅳ.市民活動センターたちかわの主なサービス---------- 4
Ⅴ.市民活動センターたちかわの特色---------- 6

■2 章　平成 23 年度の活動

Ⅰ.1 年間の相談集計結果と分析 ---------- 7
Ⅱ.東日本大震災への対応 ---------- 17
Ⅲ.平成 23 年度　地域福祉コーディネーター活動報告 ---------- 19
Ⅳ.4 つの活動の柱---------- 33
1.市民参画の運営委員会によるセンター運営 ---------- 33
2.協働の推進 ---------- 36
3.地域づくり ---------- 40
4.市民活動支援 ---------- 46
5.その他 ---------- 53
Ⅴ.平成 23 年度の市民活動センター事業を振り返って ---------- 54
Ⅵ.平成 24 年度に向けて ---------- 56
Ⅶ.平成 23 年度収支決算(概略)---------- 57

■3 章　資料 ----------58

Ⅰ.平成 23 年度登録団体 ---------- 58
Ⅱ.平成 23 年度登録サロン---------- 64

※1 章については、市民活動センターたちかわ運営委員で分担執筆しました。

はじめに

市民活動センターたちかわが誕生したわけは

社会制度の規制緩和や格差社会、少子高齢化といった人口構造や家族機能の変容など、社会環境が激しく変化している。

雇用環境の悪化やひきこもりなどの新たな社会問題が表出し、行政からの一律的サービスだけでは解決できない多様な生活課題も浮き彫りとなっている。

地球環境の変化による生命の危機が現実味を帯び、巨大災害も頻発している。

市民・行政・企業がそれぞれの力を引き出しあいながら、持続可能な社会を創っていかなければ、未来は構築できないことに私たち市民は気付きはじめている。

ひとりひとりの市民がどう社会に参画していくかが重要な時代である。

一方、阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動への関心の高まりや、NPO 法（特定非営利活動促進法）の制定、さまざまな市民活動団体の登場など、ボランティア・市民活動のあり様も多様化している。

こうしたことを背景に、センターに寄せられる相談や情報も実に幅広く多様となってきている。期待される役割や事業、サービスのあり方も変化してきている。

多様性に応えられ、社会課題の解決に貢献し、たくさんの人と活動をつなぐ、市民にとって真に必要とされるセンターであるために、市民活動センターたちかわ（以下センターという）は、平成 15 年４月に「立川ボランティアセンター」から機能拡大をし、再スタートするに至った。

１章　市民活動センターたちかわとは

Ⅰ．市民活動センターたちかわの使命と基本方針

【使命】

市民社会を拓きたい

【基本方針】

私たちは「市民」を、次のように思い描いています

1.自分で考えて行動する
2.社会のために行動する
3.地球のために行動する

私たちの考える市民社会とは、多様な人々が連携し、社会の課題解決に向けて取り組み、誰もが希望を持って生活できる社会である、と考えています。

Ⅱ．立川のまちの特性

○人口：立川市の人口は 2012 年 2 月 1 日現在で 178,673 人、世帯数は 84,566 世帯である。戦前戦後にかけて急激な増加を続けてきた人口は、1975 年以降はゆるやかな増加に転じ現在に至っている。※1

今後の予測として、立川市の「第三次長期総合計画」（2000 年 3 月策定）では、2014 年における人口が、概ね 19 万人、昼間人口は 24 万人と想定している。

急激な人口増加は市民の中で他地域からの移住者が占める割合が大きいことを示している。

2011 年 3 月 31 日現在立川市の 1 世帯あたり人員は 2.11 人である。11 年前の 2000 年は 2.38 人、21 年前の 1990 年時点では 2.69 人であり、確実に 1 世帯あたりの人数は減少している。※2

○面積：24.38 平方キロメートル。※3

○地域的特色：東京都の中央西よりにあって、都心から 40km 圏、東京駅から電車で 50 分程度の位置にあり、八つの市に隣接している。地形的には、市域南端の日野市との境に多摩川が流れ広々とした河川敷を構成し、河岸段丘崖に緑の多い傾斜地があるほかは、概ね平坦な地形である。市全域が都市計画区域に指定されている。

また市内には JR 中央線など東西方向に 5 路線の鉄道が通るほか、多摩都市モノレールの開通により南北方向の交通も確保され、立川駅はあらゆる方向からのアクセスが容易な多摩地域の交通の中心となっている。その結果、立川駅を中心として商業・飲食施設や事務所施設などが集積、その周辺に密度の高い市街地を形成する一方、国営公園や市北部地域の農地・屋敷林・玉川上水など、緑とオープンスペースも比較的多く残されており、近代的な町並みと郊外的なうるおいが共存する、多様な面のある地域特性を持っている。※4

※1,2,3 立川市ホームページから

※4 『立川市第３次長期総合計画』「Ⅰ総序－2 本市の特徴」から

Ⅲ．市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」

『市民意向調査報告書』（2008 年 11 月）によれば、立川市を住みよいまちだと思う人は 78.4%を占めており、また今後進めていくべき重点施策として最も多いのが「高齢者福祉の充実」（43.7%）であった。※5

※5 「立川市第３次長期総合計画第３次基本計画」策定に向けて、同年８月に市民計 2000 人を対象に実施

このような特色を持つ立川市民に対して、市民活動センターたちかわとしては今後に向けてどのような「立川市民像」を目指して事業を行っていくべきだろうか。

まず市民がお互いにつながっているという意識を拓いていくことを大切にした。いま求められている「つながり」とは、人びとが自由な意思に基づき、協力し、助けあい、出会いを楽しみながら、自分たち自身で住みよいまち・社会を形成していくための営みである。

すでに人々がつながりを形成している場として、会社、学校、サークル、市民活動グループ・団体、地域自治会、PTA など、すでにあるつながりに加え、新たにつながりづくりの支援を行っていくことが、市民活動センターたちかわに求められているといえる。

Ⅳ．市民活動センターたちかわの主なサービス

☆総合相談機能を持って、様々な市民活動の支援、サービスをしています。

■『協働の推進』・・・・・（協働支援センターの機能）

〇協働の仕組みづくり

・たまがわ・みらいパーク（旧多摩川小学校の跡地）企画運営委員会

〇市民活動団体との協働事業や地域イベント開催を支援

・「ふれあいミュージックフェスティバル」

・「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」

・「春・秋の楽市」

・各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣等

〇企業のCSR（社会的責任）活動への支援

・社員のボランティア活動コーディネート

・新任研修への協力

■『地域づくり』・・・・・（地域活動支援センターの機能）

〇地域福祉コーディネーター

・市内２地区（栄町・若葉町地区/上砂町・一番町・西砂町地区）に専任で配属し、地域課題の解決を支援

○学校を核とした市民学習支援
・市内の小中学校・高校、各種学校の授業プログラムを地域の住民や機関、市民活動団体とともに実施
・教育機関や市民活動団体の連携を支援
○グッドネイバー運動推進団体の支援
・「よき隣人」をキーワードに、小地域単位での住民主体のまちづくりを進める、市内４ヵ所(柴崎・栄・若葉・西砂一番)の団体の支援
○「支えあいサロン」活動の支援

■『市民活動支援』・・・・・(ボランティアセンター・NPO支援センターの機能)
○日々の市民活動に関する相談
・「ボランティアしたい」「サポートしてくれる市民活動団体を探している」「NPO法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか」「立川でイベントをするので広報周知してほしい」などの相談対応
○おもしろボランティア大学の開催
・ボランティア活動を始めるきっかけとする講座の開催
○市民活動体験プログラム
・夏!体験ボランティア
○情報の受発信
・ホームページの運営と管理　各団体の活動情報を発信
・市民活動情報コーナーの設置
紙媒体による情報収集、インターネットでの情報検索ができるコーナーを運営
・情報誌『市民活動センター★たちかわ通信』を発行
・『市民活動センター登録団体紹介BOOK』及び『ボランティア紹介冊子』の発行
・市民活動センターたちかわ登録団体や情報希望者との連携
○NPO法人設立ガイダンス
・NPO法の解説や法人化の意義、設立に向けた手順や事務についてのガイダンスを定例開催
○市民活動団体向け実務講座
○市民活動団体マネジメント講座
○活動資金助成
・立川市社会福祉協議会市民活動助成　　市民活動団体の立ち上げまたは活動資金を支援
・各種民間団体の助成情報の周知
○活動スペースの貸出し
○機材の貸出し
・印刷機、拡大印刷機、コピー機、紙折り機、館内情報検索用パソコン、図書など各種備品の貸出し
・他の施設、団体と共有できる物品の貸出し
　プロジェクター、スクリーン
○ボランティア保険および行事保険の相談や加入受付

Ⅴ. 市民活動センターたちかわの特色

「市民活動センターたちかわ」は市民で構成される運営委員と職員を交えた20余名の合議型運営方式で運営している。

ボランティアや市民活動団体を支援すること(中間支援)を通して、社会の様々な課題解決に貢献することを目指し、日々、市民や団体を『つなぎ』、『育み』、『拓く』役割を担っている。

また、私達のセンターの特色といえるのは、いろいろな所から寄せられる多様な相談を大事にしていることである。漠然とした行き場のない相談の中に、新たな社会の課題が見え隠れし、市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれているからである。

市民や市民活動団体から聞こえてくる多くの声から市民社会の見えないNeedsやwantsを探り『協働の推進』、『地域づくり』、『市民活動支援』の3つのキーワードからなる事業を推進していく。地域や市民に根ざしたセンターを目指して、相手の声を直接に聞き、コミュニケーションを取りながら適切な役割を担うという手法を積極的に取り入れている。

設立から9年が経過したが、センターは現状に満足することなく、「これからの公共」について発信力を持つ大阪ボランティア協会やせんだい・みやぎNPOセンターなど、各地の先進事例を学びながら、多くの市民から愛される市民活動センターとなるよう取り組んでいく。※1

※1大阪ボランティア協会　http://www.osakavol.org/

せんだい・みやぎNPOセンター http://www.minmin.org/

２章　平成２３年度の活動

Ⅰ．１年間の相談集計結果と分析

ボランティア活動やNPO、地域活動に関する相談を市民活動センター窓口や、立川市社会福祉協議会あいあいステーション窓口、地域で事業を実施する中で受け付けた。相談内容に応じて、情報提供、課題整理のお手伝い、人や機関をつなぐコーディネート、生活課題解決のための個別相談などにつなげた。

相談内容も多岐に渡るため、個々の相談に応じて、その場面で必要な役割と支援を見極めることと、相談者である市民自身が持つ解決力を引き出すことを、センターの相談受付においては大切にしている。

また、センターに寄せられる相談から、その時々の社会課題、地域課題、市民活動に関する現状が浮かび上がってくる。これらの相談内容は、今後のセンター事業を方向付ける基盤となっている。寄せられる相談の大きな特徴としては、以下の4点がある。

①「本当に役立つ情報」が求められている

センターだからこそ入手できる「具体的な人となりや活動が分かる情報」や「この辺りの地域で私たちが使える社会資源は何か」といった、きめ細やかな情報が求められている。また、ある情報を一面的に捉えるのではなく、そこから新たな可能性を引き出し「役立つ情報」にしていくことも大切な働きと捉えている。

②多様なつながりをつくる相談が増加している

障害者施設と企業の連携など、団体の活動分野を越えた多様なつながりをつくるための支援が増えている。立川というまちに密着したセンターなので、多様な連携によって生まれる市民への波及効果を意識しながら、連携していく姿勢を大事にしたい。

③地域に密着した活動により、課題の掘り起こしがしやすくなっている

地域福祉コーディネーターが配置され、地域における交流の場づくりや団体間のネットワークづくり、調査活動、普及啓発活動を行なっている。平成22年度より2地区目の配置となり、より地域に密着した活動が展開できるようになった。相談を待つだけではなく、課題の掘り起こしや早期発見ができるようになった。今後は、地域福祉コーディネーターが掘り起こした課題をセンターと連携して解決し、さらに広がりを持つことが重要となっていく。

④専門機関との新たな連携が必要な相談が増加している

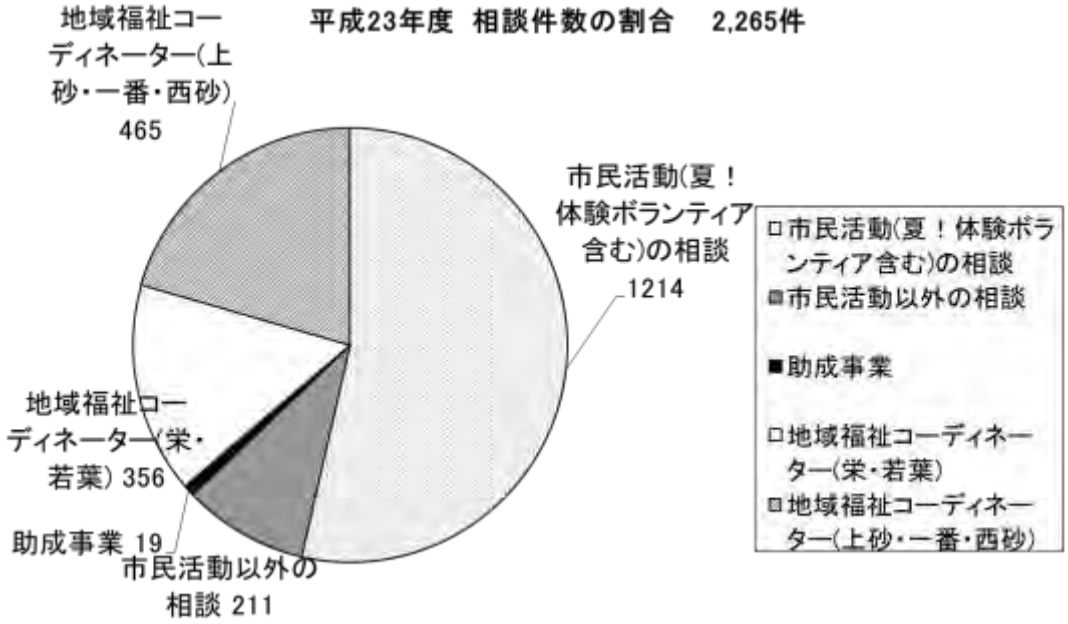
閉じこもりの方や、精神的ダメージを強く受けている方からの相談も増えている。そのため、カウンセリングの専門技術を必要とする相談なども見受けられる。センターとしての対応の限界点を見極めると同時に、新たな専門機関との連携が必須な状況である。

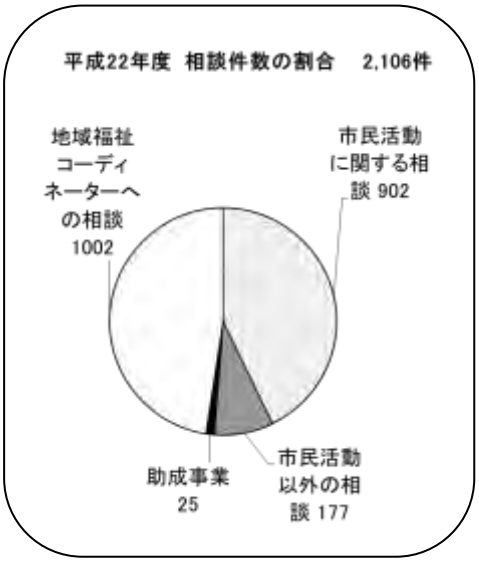
(1)市民活動センターたちかわに寄せられた相談

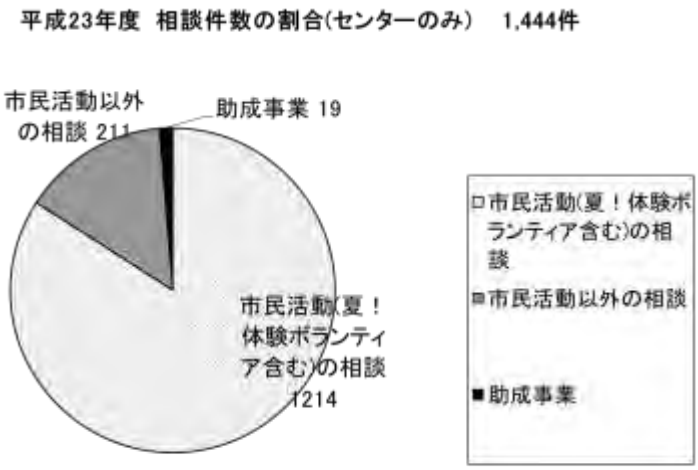
○相談件数　2,265 件（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

・市民活動に関する相談(夏！体験ボランティア 169 件を含む)	1,214 件
・市民活動以外の相談	211 件
・助成事業申請相談	19 件
・地域福祉コーディネーターへの相談(栄町・若葉町)	356 件
・地域福祉コーディネーターへの相談(上砂町・一番町・西砂町)	465 件

(2)市民活動に関する相談





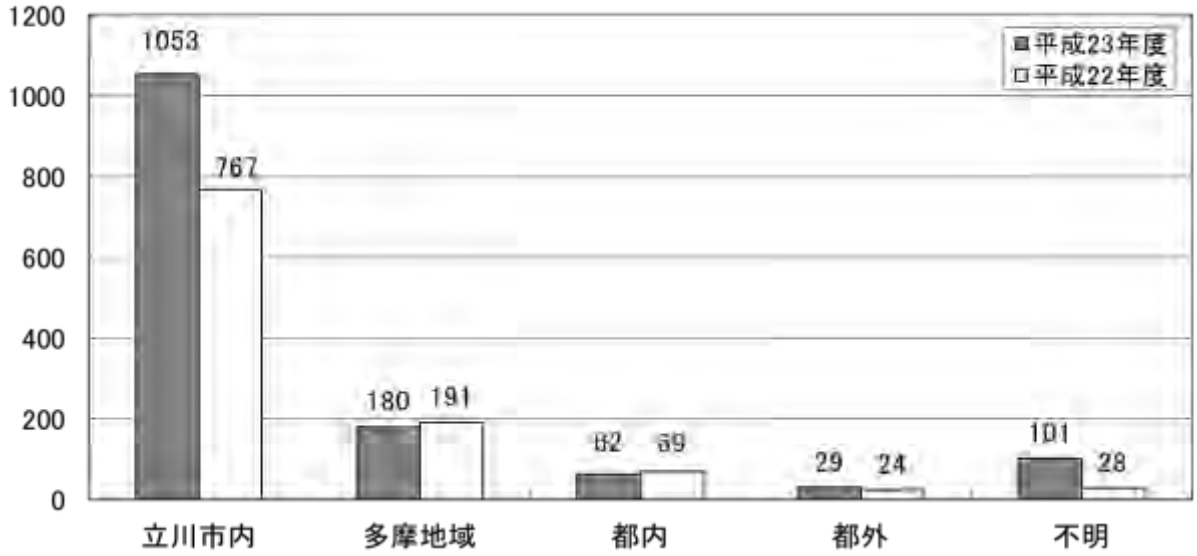


※以降の集計は市民活動に関する相談及び市民活動以外の相談（助成事業相談及び地域福祉コーディネーターへの相談は除く）件数を集計。

■相談者の様子

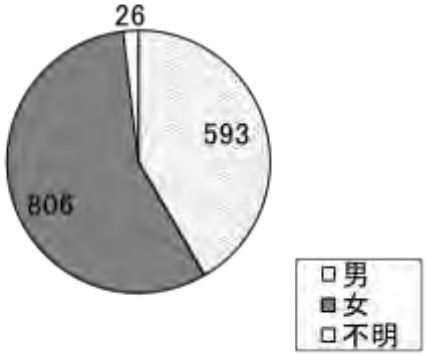
相談者の居住地は、センターの特性上、立川市内が最も多いが、市外からの相談も多く寄せられている。地域福祉コーディネーターの増配置により、センタースタッフにも、より地域に密着した相談が寄せられているため、市内からの相談件数は増加傾向にある。

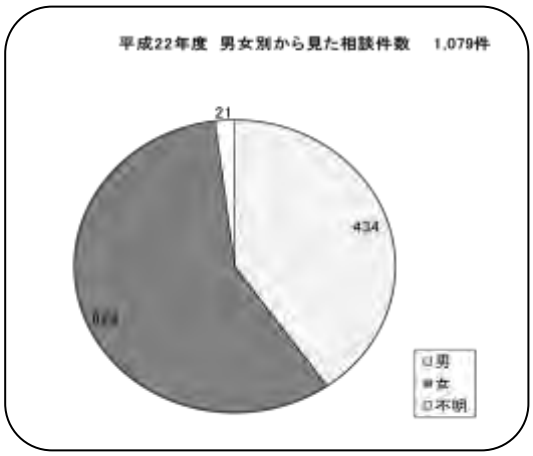
居住地別から見た相談件数　1,425件



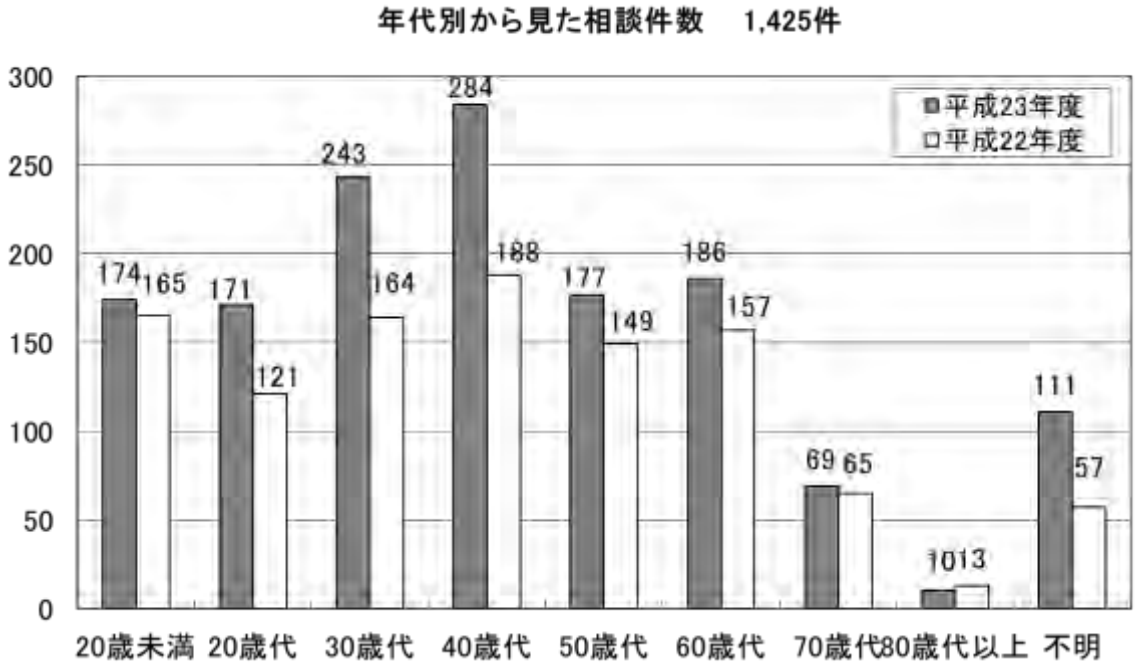
男女比は前年度と大きくは変わらないが、女性からの相談が増えている。

男女別から見た相談件数　1,425件

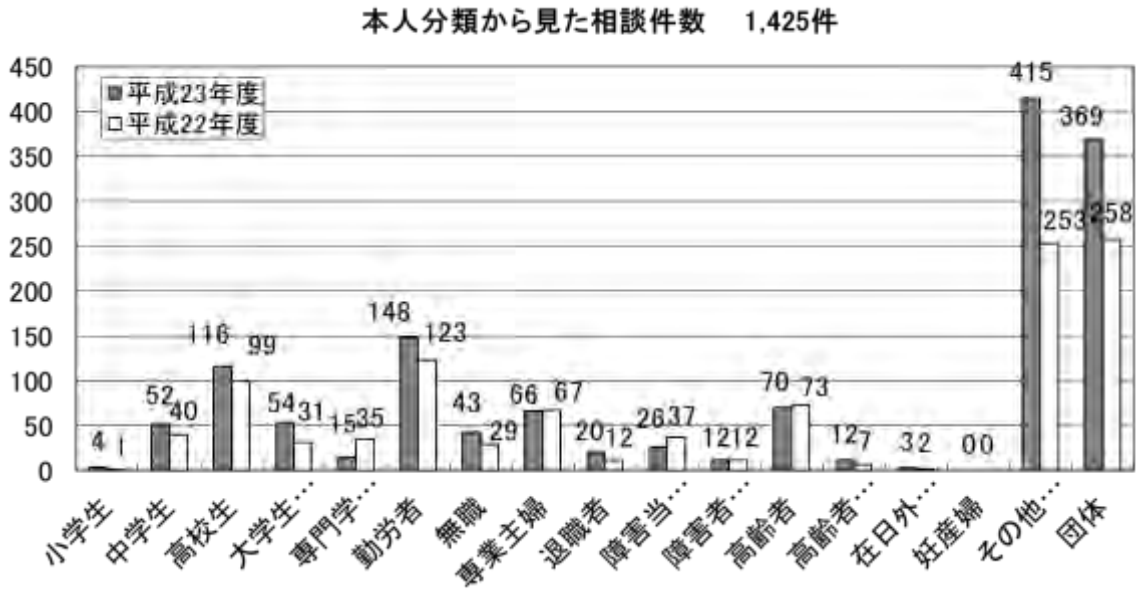




年代別の割合は、昨年度とほぼ同じであるが、20～40 歳代の方からの相談の割合が増えている。

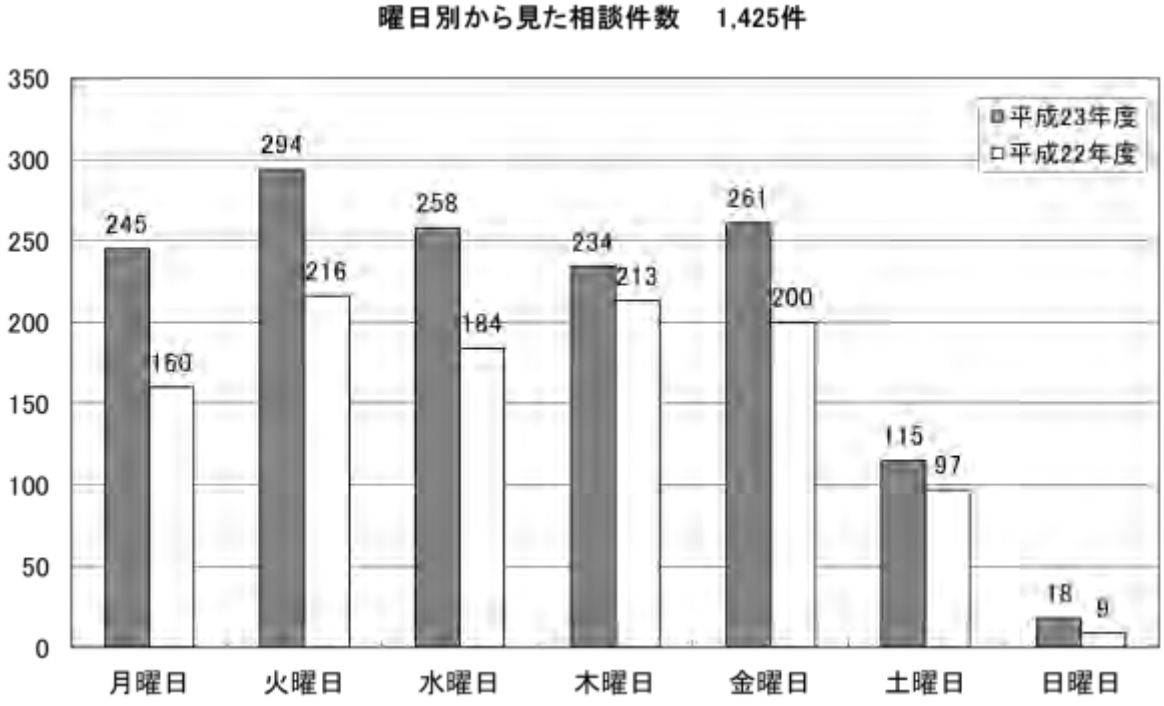


本人分類で見ると、その他分類の件数が団体からの相談を上回った。その他分類には学校や行政、他地区社会福祉協議会からの相談が多い。また、中高生、大学生、勤労者からの相談数が増えている。



■相談が寄せられる日時の傾向

センター開所日のうち、土曜日の相談件数は昨年度同様に少ない。平日の週初めの相談が増えている。比較的火曜日の相談が多い。日曜日は、地域イベントなどの機会に受けた相談がほとんどである。



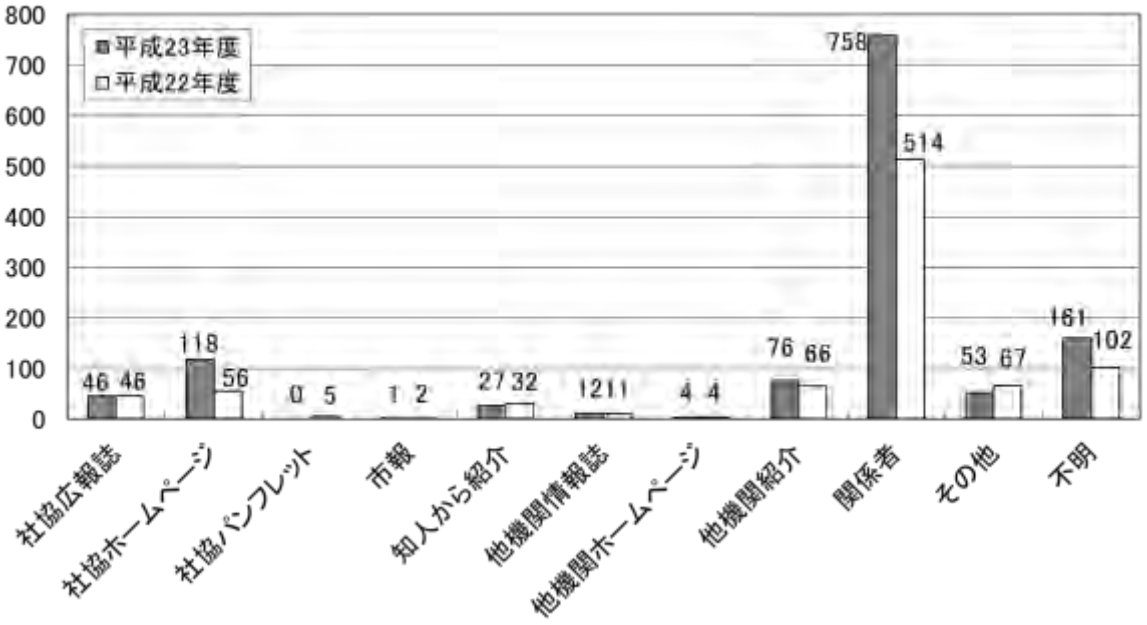
相談が寄せられる時間帯については、14:30～、16：30～の時間帯が昨年度と比べてかなり増えている。

■センターに連絡を入れるきっかけとアクセス方法

ホームページからのアクセスが増加している。また、関係者からの相談も増えており、相談者の多くはリピーターであることが伺える。

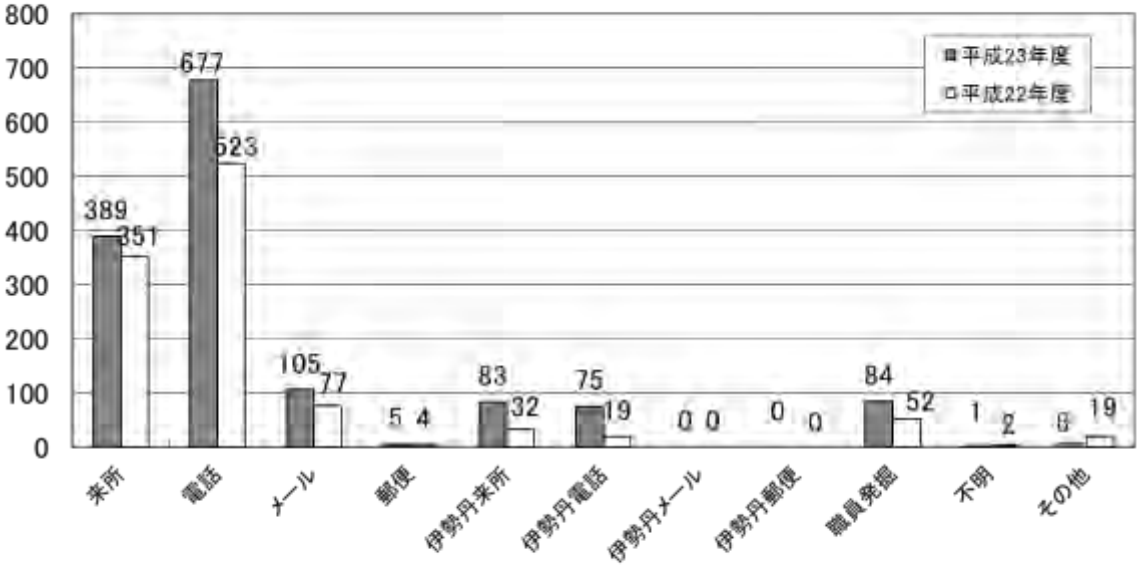
なお、「関係者」とは、一度でもセンターを利用したことのある方を含めている。

アクセス方法から見た相談件数　1,256件



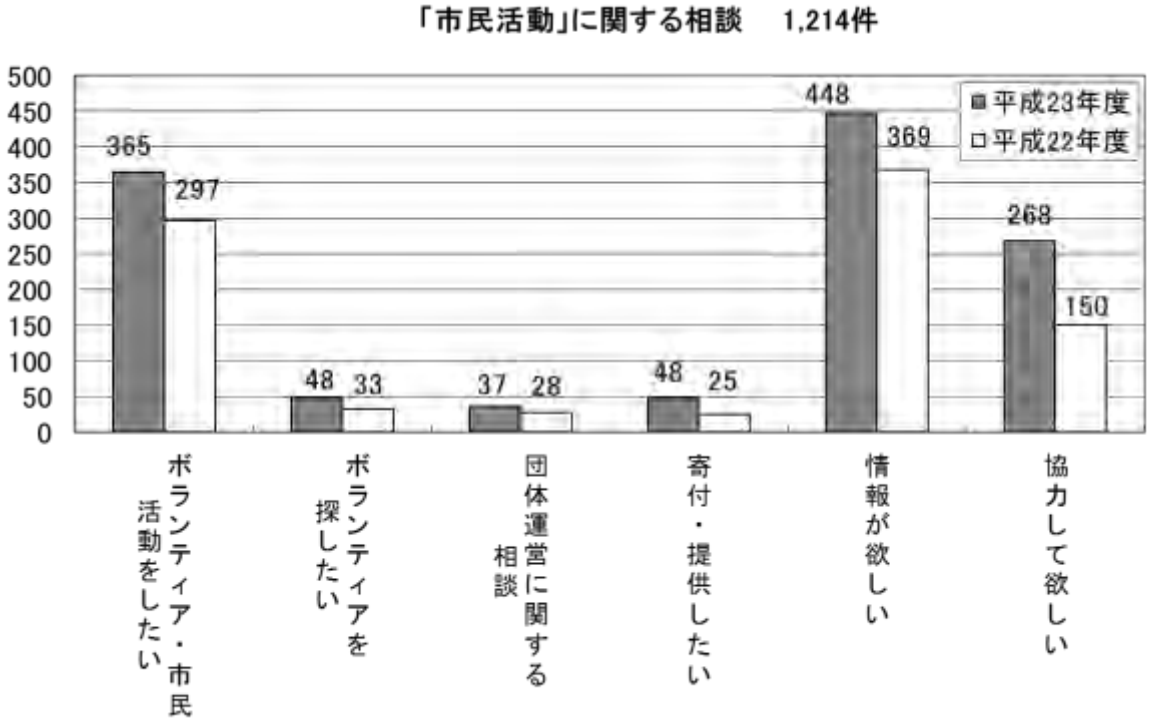
相談の受付方法については、全体比で見ると電話の割合が多くなっている。また、地域に出る機会が増えたため、職員が自ら課題を発見し相談につなげる件数も増えている。

受付方法から見た相談件数　1,425件



■市民活動に関する相談内容

全体的な相談件数は昨年度(902 件)と比べて約 25%増加している。今年度は、「情報が欲しい」「ボランティア・市民活動をしたい」「協力して欲しい」という相談が増えている。



「ボランティア・市民活動したい」「ボランティア・市民活動ほしい」という相談には、以下のような相談が寄せられている。最初から希望するボランティア活動のイメージを持っていない相談者も多く、その都度、相談者のニーズに合うような活動やボランティアを一緒に探している。

活動分野	ボランティア・市民活動したい	ボランティア・市民活動ほしい
保健・医療・福祉	・高齢者介護、見守り等 ・傾聴 ・障害者支援 ・レクリエーション （歌、麻雀、将棋、囲碁等） ・高齢者施設での活動補助 ・障害者施設での配膳 ・手話	・障害者施設での活動補助 （食器洗浄、宿泊旅行） ・高齢者施設での支援(外出支援等) ・レクリエーション （民謡指導、手芸指導、和太鼓等） ・障害児の送迎 ・パソコン指導 ・在宅高齢者のごみ出し ・日本語指導
文化・芸術・スポーツ	・レクリエーション （手品、折り紙、楽器演奏等）	・イベント支援 （書道、楽器演奏等）

子ども	・保育園や児童館での活動 ・学習支援 ・保育、見守り等 ・読み聞かせ活動 ・児童養護施設での活動支援	・障害児のリハビリ支援 ・障害児の保育 ・学習支援
国際協力	・通訳・外国人への日本語指導	
災害救助	・看護支援 ・被災地支援 ・市内被災者への支援	
その他	・ジョブコーチ ・船の修理	・在宅高齢者宅の灯油運搬 ・ペット(猫)の病院までの送迎

また、活動分野から見ると「保健・医療・福祉」と「子ども」の分野が多いのは昨年度同様だが、「まちづくり」の分野が昨年度と比べて増えている。このことからも地域から寄せられる相談が増えていることが見て取れる。また、震災の影響で災害救助が増加した。

年代から見ると、「子ども」分野は 40 歳代以下の女性が多い。「まちづくり」分野は 20～40 歳代の活動希望者が多いが、男女の比率に大きな差は見られない。

活動分野と年代のクロス集計

	不明	20歳未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳以上		年齢不明		合計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
保健・医療・福祉	4	0	9	10	15	25	22	22	28	11	28	19	17	11	11	0	0	2	3	**237**
社会教育	2	2	0	3	6	10	4	3	5	2	6	2	3	3	1	0	0	0	1	**53**
まちづくり	4	4	6	13	21	24	30	55	39	22	27	36	43	16	11	3	1	4	4	**353**
文化・芸術・スポーツ	2	1	0	2	6	2	7	5	6	3	6	4	8	4	4	0	0	1	2	**63**
環境保全	0	1	0	1	1	3	5	1	1	1	1	2	1	0	0	0	0	2	0	**20**
災害救助	5	1	1	15	10	20	8	18	11	8	7	4	5	1	0	1	0	20	13	**148**
地域安全	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	**1**
人権擁護・平和の推進	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	**5**
国際協力	1	0	2	1	2	0	1	0	2	0	1	0	3	1	0	0	0	1	3	**18**
男女共同参画社会	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**
子ども	0	0	3	0	15	7	19	6	12	1	9	0	4	0	0	0	0	0	0	**76**
助言・援助	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**
情報化社会	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	**5**
科学技術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
経済活動	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**
消費者保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
職業能力開発・雇用機会の拡充	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**4**
その他	3	2	3	1	3	1	1	4	2	0	3	0	3	0	1	0	0	16	14	**57**
合計	**23**	**11**	**24**	**47**	**79**	**92**	**101**	**116**	**108**	**49**	**89**	**69**	**88**	**37**	**29**	**4**	**1**	**46**	**42**	**1045**

○「ボランティア・市民活動をしたい」という相談の一例

東日本大震災を受け、被災された方に何かしたいという問い合わせが多数寄せられた。その中の一つに、「理美容のボランティア」があり、立川の美容院のスタッフが、被災地に出向き、カットを無料で行うというものであった。現地の復興を妨げないよう配慮しながら、活動先を調整し、福島県郡山市、宮城県女川町で活動された。被災された方のお名前を一人、一人お呼びしながらカットしていくと、「よくきたね、ありがとう」と泣くご婦人もいらしたとのこと。

参加したスタッフは、「励まされて帰ってきました」と話していた。

これからも人と人とのつながりを大切に、コーディネートしていきたい。

(2)「市民活動」以外の相談

「市民活動」に関する相談以外にも、生活などに関する相談も寄せられている。

分野に当てはまらない「その他」の相談が最も多く、どの相談機関を訪ねたらよいのかわからない(新たな社会的課題や公的サービスの隙間など)相談が多いことも特徴である。これらのことから、社会状況を反映している生活に関する課題なども増えていると考えられる。

市民活動以外の相談と年代のクロス集計

	不明	20歳未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳以上		年齢不明		合計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
生計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	**1**
職業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	**2**
家族	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**
医療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
身体障害	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	**2**
精神保健	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**3**
結婚・離婚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
その他障害者福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	**1**
高齢者福祉	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	**6**
アルコール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
ひとり親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
子ども	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**3**
子育て	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**
学校	0	0	0	2	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**7**
地権・成年後見	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
法律・財産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
苦情	0	0	0	0	0	2	6	3	1	2	4	2	2	1	2	0	1	0	0	**26**
支援費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
その他	2	0	0	7	11	11	20	17	17	9	17	10	23	6	1	0	0	1	3	**155**
合計	**2**	**0**	**2**	**10**	**11**	**15**	**29**	**24**	**24**	**12**	**22**	**15**	**28**	**7**	**5**	**0**	**1**	**1**	**3**	**211**

市民活動以外の相談の中で、もっとも多い「その他」の分野には以下のような相談がある。

「その他」の相談内容

問合せ	・ボランティア保険及び行事保険について ・市民活動センター実施事業について (部屋の貸出、団体登録、支えあいサロン、ホームページ等)
協力依頼	・市民活動センターの視察について ・講演会等の講師依頼について ・卒業論文作成のための情報提供 ・講演会の企画、広報の仕方について ・総合学習等のプログラムづくりや協力者の紹介について ・助成申請の推薦について ・在日外国人のヒアリング調査について ・高齢者施設利用者合同作品展示会場紹介について
情報提供	・他機関への登録や制度への申請方法について ・福祉系の求人情報について ・視察先紹介について ・障害児学童について ・ガイドヘルプ養成講座制度について ・商品開発参加団体について
その他	・家族関係の問題相談について ・苦情(センターからの発送物について、広報紙への記載ミス等)

○「市民活動」以外の相談の一例

市内の信用金庫と企業から、「現在、視覚障害者のための商品開発をしており、開発にあたってご意見をくださる障害当事者を探している」との相談が入った。視覚障害者が、ガイドなしで歩行できるようにサポートすることを目指した商品で、他市の企業・大学との協働開発である。それぞれの地元にある資源を活用したいとのこと。そこで、普段から市民学習支援に関わっている障害当事者団体などをコーディネート。バリアフリーなどに問題意識を持っている当事者をお引き合わせすることができた。当事者もこういった商品を自分たちのために作っている企業がいることに驚いていた。長い時間はかかるが、両者の想いがひとつの商品として完成する日を待ちわびている。

市民活動センターには、企業から社会貢献に関するもの以外の相談も寄せられる。今後も「私たちに関係のない市民や相談はない」という方針を大切にしながら、様々な相談に応えていきたい。

Ⅱ. 東日本大震災への対応

(1)震災に関連する連絡・調整など

立川市より、救援物資の受付と、競輪場での被災者受け入れのためのボランティア募集の依頼を受け、そのコーディネートを行った。競輪場は避難所開設の準備をしていたが、実際の受け入れには至らなかった。

物資受付けのボランティアは、市庁舎 1 階に受付窓口が設置された。そこに、市民活動センターより関係団体へ協力を依頼し、6 団体の協力を得て受付けを実施した。

■協力団体

・ＳｅＲＶ　・立川市明るい社会をつくる会　・立川市災害ボランティアネット
・そば打ち友の会　・たちかわパソコン倶楽部　・東京立川断酒新生会

(2)震災に関連する相談

発災直後からホームページでの情報提供に努めた。全国社会福祉協議会や、東京ボランティア・市民活動センターのホームページを紹介し、現地の災害ボランティアセンターの立ち上げ状況などがわかるようにしたこともあり、問い合わせが殺到する事態はなかった。それでも、震災に関連する相談は徐々に増え、物資の送付先や品物、被災地にボランティアで行きたい、立川に避難してきた人のために何かしたいという相談が多く寄せられた。

発災直後から 8 月にかけての相談は下記のとおり。それ以後は、震災による相談が減少したことに伴い、通常の相談と同様に受けた。

■震災に関連する相談件数／80 件

・物資受付けのボランティア：3 件
・物資送付の問合わせ：11 件
・被災地に行きたい：17 件
・避難者に何かしたい：38 件
・避難者からの相談：11 件

(3)ボランティア保険の加入受付け

被災地に支援に行きたいボランティアが、市民活動センターやあいあいステーション窓口にて加入手続きを行った。通常は加入受付け日の翌日から適用になるが、震災にかかわる特例措置として、震災関連のボランティアには加入日より適用になった。そのため、「これから被災地に向かう」と、すぐに窓口で手続きをして被災地に赴くボランティアもいらした。

本年の加入人数は 5,194 名であったが、これは昨年の 2,821 名を大きく上回り、その多くが震災関連であったと思われる。被災地のボランティア保険加入は、現地に多大な負担をもたらす。また、未加入者はボランティアを断られる場合もあり、ボランティア保険の情報を提供することも大事な役割の一つであった。

(4)震災避難者の孤立化防止事業

震災により、市内に避難してきた方が孤立しないように、東京都からの補助を受け実施した。戸別訪問担当者を配置し、地区担当者と共に 10 月より半年間訪問調査などを行った。都営上砂町 1 丁目アパート(通称:大山団地)に居住した方には、大山団地自治会を中心に組織された「東日本大震災避難者を支援する会」に立川市社会福祉協議会より業務委託をして見守りがなされている。市民活動センターは、大山団地以外の、市営住宅や個人宅に避難している方へ訪問調査を行った。

■避難者数 101 世帯 217 名(24 年 3 月末時点)

・都営大山団地 (65 世帯 151 名)

・市営住宅、その他個人宅等 (36 世帯 66 名)

■戸別訪問の実施

・戸別訪問実施 20 世帯。電話などで事前連絡を行い、訪問の必要性を判断した。初回訪問では、訪問担当者 1 名と地区担当者 1 名の 2 名で訪問を行った。課題に応じて、地域包括支援センターや民生委員・児童委員、司法書士など、関係機関と連携して支援を行った。その後も見守り、支援などが必要な方には継続して訪問をしている。

(5)被災地への職員派遣

立川市社会福祉協議会は、東京都社会福祉協議会(東社協)と、「災害時相互支援に関する」協定を結んでいる。この協定は、「関東甲信越静ブロック都県指定都市社会福祉協議会災害時の相互支援に関する協定」(関ブロ協定)に基くもので、関ブロ→東社協→各市区町村社協と派遣の要請が行われる。その要請などに応じて職員派遣を行った。

期間	職員名	派遣場所等
3/29(火)～4/2(土)	小林郁義	福島県相馬市災害ボランティアセンター
4/10(日)～4/14(木)	早川郁子	福島県相馬市災害ボランティアセンター
6/5(日)～6/10(金)	田中亮彦	福島県相馬市災害ボランティアセンター
6/17(金)～6/22(水)	小澤真治	福島県相馬市災害ボランティアセンター
7/23(土)～7/28(木)	枝村珠衣	福島県相馬市災害ボランティアセンター
10/24(月)～10/31(月)	枝村珠衣	福島県川内村生活支援ボランティアセンター
10/31(月)～11/7(月)	早川郁子	福島県川内村生活支援ボランティアセンター

Ⅲ. 平成 23 年度地域福祉コーディネーター活動報告

住民と協働して地域づくりを進める「地域福祉コーディネーター」を栄町・若葉町地区に専任で配置して５年、上砂町・一番町・西砂町地区に増配置して２年が経過した。地域内の多様な取り組みに関わりながら、地域課題を地域住民と共に俯瞰し、人と人、活動と活動の結び目をつくるべく活動している。

今後、市内の福祉６圏域全ての地域への配置を目指して住民主体の活動を積み上げていく。

(1)地域懇談会の開催

市民による課題の発見と共有化をし、さらに解決のための活動づくりを目指して開催している。

《栄町・若葉町地区》

■「わかばの会（認知症の高齢者を支える家族の会）」の開催

平成 21 年度より、毎月１回定例会を開催している。介護をしている家族同士で日頃の不安や心の疲れを出し合い、情報交換もしている。（参=参加者　V=運営ボランティア）

5/9（参５名 V1 名）、6/13（参３名 V1 名）、8/8（参４名）、9/12（参６名）、10/17（参４名）
11/14（参３名）、12/12（参６名 V4 名）、1/9（参１名）、2/13（参６名）

■男性介護者の集い

上記の認知症の高齢者を支える家族の会にも男性介護者は参加しているが、一般的に男性は懇談の場に参加しづらく、女性以上に介護を負担に感じながらも一人で抱え込みがちである。そこで、わかば地域包括支援センターと共催で、状態が深刻化しがちな男性を対象に、懇談の場を設けることにした。定例会は隔月に１回。参加者は近隣市からも来ていて、認知症の方だけでなく、難病の家族を看病している人もいる。参加者数はこの１年で定着してきており、話すことで肩の荷を降ろして帰っていく方も多い。出された問題から、現行の介護保険制度の課題についても考えていきたい。

○講演会　「男性介護者の現状とささえるしくみ」
　　日　時　　平成 23 年 12 月 24 日（土）
　　会　場　　立川市女性総合センターアイム
　　講　師　　太田貞司氏
　　参加者　　11 名

○定例会　4/2　参加者５名、6/4　参加者６名、8/6　参加者４名
　　10/1　参加者５名、2/4　参加者６名

■若葉町の移動問題を考える

若葉町は路線バスやコミュニティバスのルートから外れている地域が多く、高齢者の多い自治会から交通の便を良くできないか、という課題がだされていた。そこで平成 22 年度にいくつかの自治会関係者やわかば地域包括支援センターと懇談会を開催した。その中では「介護予防的」に利用できる、近距離の移動についてのニーズが多く出された。これに対応するのは NPO やボランティアベ

ースの送迎サービスだと思われるが、市民に活動を呼びかけるには至っていない。現在の支援は自治会内で送迎をする際に必要な、保険の情報提供などに止まっている。

また、行政が「交通マスタープラン」作成のためのヒアリングを行った。住民の状況や要望を伝える機会と捉え、ヒアリング対象として自治会や子育てサークル、ボランティアグループなどを積極的に紹介した。住民の日常の移動についてデータ化されたことはとても有意義であった。

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して、複数の団体と協働で栄町・若葉町地区懇談会として開催している。コーディネーターは会場手配、情報が伝わりにくい該当者への呼びかけなどを行っている。障害のある人もない人も共通の課題は防災であることから、発災時に障害のある方が地域で取り残されることがないよう、日ごろから地域と接点をつくるように心がけている。防災の取組みは町単位で行われているため、栄町と若葉町でそれぞれ自治会、民生児童委員、わかば地域包括支援センターによる懇談会を開催することができた。

〇若葉町地域懇談会　10/21（金）

参加者　自治会 4 名　民生委員・児童委員 11 名（内 1 名は自治会役員兼務）当事者 3 名
わかば地域包括支援センター1 名

〇栄町地域懇談会　　10/28（金）

参加者　自治会 7 名　民生委員・児童委員 2 名　当事者 6 名
わかば地域包括支援センター1 名

〇定例会　8/26　参加者 10 名　　2/29 は雪のため流会

■若葉町団地　自治会・UR 都市機構・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会

前年度来、団地に暮らす高齢者の孤立死を防ぐために懇談の場を設けて定期開催をし、構成メンバーそれぞれが持っている困難を出し合って現状を交流している。今年度は東京都の助成金を活用して階段昇降機の購入ができた。階段昇降機の運用研修を通して防災の人材育成を始めている。

また、五者懇談会の中で住民同士の繋がりを広げるためのお食事会を開催することが提案され、ボランティアグループの協力も得られ、継続的な取組みに発展した。

〇若葉町団地見守り懇談会

8/19(金)　第 3 回懇談会「団地内の見守り活動について」　　10 名
9/24(土)　家具転倒防止講座　12 名
10/7(金)　第 4 回懇談会「地域ささえ合い体制づくり事業について」　10 名
11/29(火)　第 5 回懇談会「団地アンケート調査の結果について」他　　7 名
2/ 7(火)　第 6 回懇談会「階段昇降機の購入」他　　6 名
3/27(火)　第 7 回懇談会「助け合いの会など人材育成事業について」　6 名

参加者　若葉町団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、UR 都市機構(住宅管理協会)、
わかば地域包括支援センター

■けやき台団地　自治会・UR 都市機構・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会

前年度来、若葉町団地同様に懇談の場を定期開催している。けやき台団地は自主防災組織が結成されており、交流活動を通しての人材発掘、孤立防止、災害時要援護者を団地独自にリスト化するなど活発な取組みをしている。コーディネーターは各種交流活動の支援（ささえ合いサロンの登録や財源確保の相談）、防災学習会のコーディネートなどを行った。

5/9(月)　第 2 回懇談会「団地内の見守り活動の近況、震災時の対応について」　9 名
6/6(月)　熱中症・脱水症学習会　けやきサロンにて　参加者 18 名
7/13(木)　認知症サポーター養成講座　　参加者 16 名
7/23(土)　認知症サポーター養成講座　　参加者 18 名
8/5(金)　「家具転倒防止」講習会　参加者 26 名
10/17(月) 第 3 回懇談会「夏の協働事業の振り返り、今後の活動について」9 名
1/14(土)　発災シミュレーション講座　参加者 28 名
1/30(月)　第 4 回懇談会「階段昇降機について、防災の人材発掘について」他　　7 名
3/24(土)　スカラモービルを使った介助方法を学ぼう　参加者 10 名
3/26(月)　第 5 回懇談会「防災の各種取組みについて」　　8 名
参加者　けやき台団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、
UR 都市機構(住宅管理協会)、わかば地域包括支援センター

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して開催している。災害時要援護者支援のあり方を探りながら、「災害時への備え＝日常的なコミュニティへの参加」を当面のテーマとし、障害当事者と地域活動者で共に取り組みを継続させていく。

参加者：　地域在住障害当事者、障害関係団体(たつのこ、手をつなぐ親の会、すみれ会、幹福祉会、いもっこ、みんなの広場福祉連絡協議会)、民生委員・児童委員障害福祉部会、自治会、立川市災害ボランティアネット、西砂・一番市民活動ネットワーク、自治連西砂支部、西砂体育会、市議会議員

○定例会

4/26(火)　第 7 回地域懇談会「3/11 について共有」　16 名
5/24(火)　第 8 回地域懇談会「3/11 について共有」　15 名
6/28(火)　第 9 回地域懇談会「地域防災活動アイデア出し」　14 名
7/21(木)　第 10 回地域懇談会 防災課を招いて「災害時要援護者避難支援プラン全体計画」学習　25 名
9/ 8(木)　第 11 回地域懇談会「地域での取り組み協議」　16 名
10/12(水)　第 12 回地域懇談会「災害時イメージトレーニングプログラム実施(講師:幹福祉会大里さん」　14 名
11/29(火)　第 13 回地域懇談会「上砂町 2・3 丁目での防災まち歩きに向け協議」　10 名

1/27(金)　　第 14 回地域懇談会「防災まち歩きに向け準備」　6 名

○地域活動参加

7/ 2(土)　　自治会連合会砂川支部地域防災訓練に参加　4 名

10/ 9(日)　　西砂町民運動会でのプログラム実施と参加　2 名

10/15(土)　　自治会連合会西砂支部地域防災訓練に参加　2 名

■自治会・民生委員・地域包括支援センター・社協　四者懇談会

互いの日々の活動を紹介し合い、地域活動で感じている課題を共有した。「災害時要援護者への対応」「自治会加入の減少・役員の負担増」「自治会と民生委員が連携して地域活動に人を呼び込む必要あり」などの課題が出された。懇談会をきっかけに茶話会開催や他地区先行事例(集合住宅での災害時要援護者見守り活動)の学習会開催に至った。

11/11(金)　上砂町・一番町東部地区　14 名(自治連砂川支部長、二番組自治会、大山自治会、地区担当民生委員)

11/18(金)　一番町東部地区　14 名(自治連西砂支部長、天王橋自治会、レクセルガーデン武蔵砂川自治会、地区担当民生委員、主任児童委員)

11/25(金)　一番町北部地区　14 名(自治連西砂支部長、立川一番町東団地自治会、エステート立川一番町住宅管理組合、地区担当民生委員、主任児童委員、市議会議員)

11/26(土)　西砂町地区 14 名(自治連西砂支部長、中里自治会、殿ヶ谷組自治会、西砂自治会諏訪の杜自治会、希望ヶ丘自治会、地区担当民生委員、主任児童委員)

■一番町 3 団地(松中団地、東団地・エステート)とけやき台団地自主防災組織との懇談会

上記、一番町北部地区四者懇談会時、集合住宅における孤立防止、災害時要援護者支援について先行地区からの学びの気運が高まり、若葉町のけやき台団地自主防災組織を招いて懇談会を開催。松中団地ではこの取り組みを参考に号棟ごとの安否確認のしくみづくりをしていくことになった。

1/23(月)　参加者 23 名(一番町東団地自治会、東会、松中団地自治会、エステート立川一番町管理組合、親和会、地区担当民生委員、財)住宅管理協会東団地担当者、市議会議員、かみすな地域包括支援センター)

■松中団地孤立防止懇談会

高齢化と団地建替えに伴うコミュニティ崩壊を防ぐために、自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと共に開催。個別ケースの支援や号棟ごとの見守り体制づくり、集会所を使った定期的なサロン開催、防災学習会開催など継続的な協働体制を取れるに至った。

6/10(金)　「団地内見守り活動について」　11 名

7/ 7(木)　「団地内見守り活動、熱中症予防、孤立死防止について」　8 名

10/ 6(木)　「移転者支援について」　5 名

10/13(木)　「NPO 法人育て上げネットの若者御用聞き打合せ」　13 名

12/26(月)　「防災学習会打合せ」　2 名

1/ 6(金)　「防災学習会打合せ」　3 名

2/ 2(木)　「移転者支援について」 7名
2/13(月)　「移転者支援について」 11名
2/17(金)　「防災訓練時の災害時要援護者支援シミュレーションについて」 4名
3/14(水)　「集会所でのサロン立ち上げについて」 4名
3/28(水)　「集会所でのサロン立ち上げについて」5名

(2)交流の場づくり

《栄町・若葉町地区》

■なかよしサロン(栄地区)

調理設備のない自治会集会所で月に2回開催している食事会。仕出し弁当を利用しての運営方法を確立したいと思い定期的に参加している。他の会場にも波及できるのではないかと考えている。

■男性のための料理教室(栄地区)

平成21年度から継続している事業。栄町地区グッドネイバーをすすめる会、立川介護老人保健施設わかばの栄養士、わかば地域包括支援センターの協働で毎月1回開催し、15名前後の方が参加している。わかば地域包括支援センターが関わった方に参加を促すなどし、閉じこもりがちだった方の社会参加に繋がっている。

■男の料理教室(若葉町地区)

立川健康生活ネットワーク、わかば地域包括支援センターと協働で毎月開催し、毎回15名前後の方が参加している。栄町と同様、地域との繋がりがあまりなかった方や虚弱な方も参加できる貴重な場となっている。

■住民のつながりづくり

①栄町2丁目63、64、65自治会立ち上げ支援(約50世帯)

隣近所の付き合いが希薄で、自治会加入率も低下している地域が多い。地域の人間関係が豊かであることが、地域の防災力、情緒的安定や介護予防を高めることに繋がる。関心のある住民がいる地域があれば、自治会立ち上げの支援につなげるようにしている。

下記の地域は前年度末から防災のまちづくりを主軸に自治会の結成を呼びかけ、核となる住民と検討を重ねた。結果、17世帯の加入で自治会の立ち上げに至り、消火器の取り付けなどの活動を開始されている。

自治会立ち上げ準備>4/16（土）5/21（土）　　自治会総会>7/2（土）

②若葉町団地・食事会

五者懇談会の中で、団地に比較的最近転入した人が知り合いを増やすための食事会を開催してはどうかという提案が出され、定期開催を始めた。初めの２回は「引っ越してきて３年以内の人」を対象にし、３回目以降は団地内をブロックで分けて、より身近に住む人同士が知り合いになれるようにした。準備・調理はボランティアグループである「えんがわの会」の協力が得られた。(参加者

数は住民、自治会役員、民生委員・児童委員、えんがわの会スタッフを加えた人数。）

11/22（火）参加者 19 名、11/25（金）参加者 13 名、12/12（月）参加者 14 名、

1/25（水）参加者 10 名、3/22（木）参加者 19 名

③若葉町 3－23 地区防災学習会

いずれ自治会の立ち上げに繋がることを期待して、同時期に入居してきた 20 軒ほどの地域を対象に、防災課の協力で学習会を開催した。

5/12（土）参加者 12 名

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン／四つ葉グループ　すまいるサロン　杜のつどい　なかよしサロン　らくらくヨガ

子育てサロン／まんまるヨガ部　パンプキン　　計７グループ

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■フリースペース・にしすな

西砂学習館運営協議会事業として毎週土曜日午後に継続開催。運営協議会委員として企画、開催に関わった。当初、対象者と想定していた不登校・引きこもりの中高校生の参加はなく、小中学生の居場所となっている。予防的意味合いを持って次年度も継続開催決定となった。

〇フリースペース実施打合せ会　3/8(木)

〇フリースペース実施支援 4/16(土)、5/14(土)、7/16(土)、8/20(土)、11/26(土)、3/31(土)

■かみすな介護者のつどい

かみすな地域包括支援センターと共に、男性介護者を中心に立ち上げを試行するが、継続開催には至らず、一旦終了とした。

4/30(土)　かみすな介護者のつどい準備会　2 名

5/28(土)　かみすな介護者のつどい 3 名

6/25(土)　かみすな介護者のつどい　1 名

■住民のつながりづくり(茶話会立ち上げ)

孤立防止を目的にした、住民主体の居場所づくりや支え合いサロンになることを目指して立ち上げを応援。最初の数回は、かみすな地域包括支援センターとコーディネーターで世話人を募り、会場確保。世話人は自治会関係者、民生委員、地域活動グループメンバーなどに声をかけ、さらに協力者を紹介して頂く方法を取った。お誘いチラシは地域の方による手配りとしている。試行実施後、住民による実施へ移行中。「ご近所と顔見知りになる」「民生委員がひとりで気にかけていた方を複数で気にかけ合える」「地域包括支援センターがつなぐ場所に苦慮していた方の受け皿」の機会にもなっている。開催グループ同士が相互に活動を見学し合い、意見交換する動きも見受けられる。

①天王橋自治会界隈

天王橋自治会館を会場に、自治会役員と地区担当民生委員が中心となり開催。天王橋自治会と

その周辺住民が参加している。

開催準備会>9/29(木)3 名、11/2(水)3 名

開催>11/8(火)21 名、2/28(火)21 名

②大山団地界隈

広報を見て「開催希望」のご連絡を頂いた方や民生委員が中心となり開催。団地外の住民、建替えに伴い松中団地から移転してきた方、在日外国人、震災避難者なども合流している。月１回の定例開催となった。

開催準備会>11/7(月)6 名

開催>12/6(火)28 名、1/19(木)24 名、2/16(木)19 名、3/15(木)25 名

③レクセルガーデン武蔵砂川交流室

自治会役員を中心に「震災後、住民のつながりづくりの必要性を実感」とマンション内交流室で開催した。

開催準備会>11/18(金)3 名

開催>12/8(木)6 名、2/9(木)9 名

④一番町東団地集会所

孤立防止や災害時の住民のつながりづくりのための懇談会を契機に、有志住民と民生委員が中心となり開催。別地域での活動の見学、試行開催を経て、次年度からは支え合いサロンとして定例開催が決定している。

開催準備会>12/14(水)6 名、1/27(金)5 名、3/6(火)5 名

開催>3/31(土)33 名

⑤上砂町５丁目界隈

マンションが多いが、会館や自治会集会所がない地域。砂川８丁目にある子どもを対象とした活動をしている NPO 法人の拠点を使って異世代交流も目的に開催準備中。

開催準備会>2/16(木)4 名

⑥松中団地集会所

孤立防止や災害時の住民のつながりづくりのための懇談会を契機に、自治会と民生委員が中心となり開催準備中。支え合いサロンとして活動していく予定。

開催準備会>3/14(水)4 名、3/28(水)5 名

■支え合いサロン立ち上げ支援

上砂いきいき、檜山さんちのえんがわ(計２グループ)

(3)調査・広報活動

《栄町・若葉町地区》

■地域広報紙「まちねっと」の発行

栄町、若葉町を対象に4回（7月、10月、12月、2月）、約11,000部を各戸配布した。わかば地域包括支援センターと協働で作成しており、介護の記事を読んでの相談も増えている。また企画したイベントも本紙を見ての参加が多くなってきた。

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■地域広報紙「まちねっと～上砂町・一番町・西砂町」の発行

かみすな地域包括支援センターと協働で7月・10月・12月・2月に約13,500部を各戸配布した。公共施設、相談センター、郵便局、病院、商店にも設置協力をいただいた。コーディネーター担当誌面については、住民による地域活動情報の媒体となることを目的としたが、掲載団体からは「住民から好反応。参加者が広がった」と報告を頂いている。

■都営松中団地建替えに伴う移転者への生活ニーズ調査

松中団地自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと協働で、移転予定者に困りごとのアンケート調査を実施。回答に対して四者で手分けして個別対応。必要に応じて、都住宅局や引っ越し業者との協議の機会を持った。

(4)その他

《栄町・若葉町地区》

■講演会・学習会

「共に生きよう！築こう、コミュニケーション力」

ホリデースクールわかばボランティアコーディネーター若葉小部会との共催企画。地域の教育力を考える機会となった。

日　時　　平成24年3月 3日(土)
会　場　　若葉小学校
講　師　　大村洋永氏(至誠ホーム副ホーム長・市民活動センター運営委員)
参加者　　18名

■地域団体との協働事業

①けやき台団地自治会・自主防災組織との連続講座

五者懇談会を受けて、日常の見守りや夏の節電対策に関わる連続講座を開催した。

6/6（月）　熱中症・脱水症学習会　けやきサロンにて　参加者18名
7/13（木）　認知症サポーター養成講座　　参加者16名
7/23（土）　認知症サポーター養成講座　　参加者18名
8/5（金）　「家具転倒防止」講習会　参加者26名

1/14（土）　発災シミュレーション講座　参加者 28 名
3/24（土）　スカラモービルを使った介助方法を学ぼう　参加者 10 名

②グッドネイバー若葉、わかば地域包括支援センターとの共催学習会

高齢者の中には、突然の入退院の時にどうしたらよいか、という不安を持っている方が多い。特に一人暮らしの方などを対象に、日頃からどんな準備をしたら良いかについて分かりやすく学習する機会を設けた。

日　時　平成 23 年 9 月 30 日（金）、10 月 13 日（木）　2 回とも同じ内容
場　所　若葉会館
講　師　わかば地域包括支援センター
参加者　9 月 30 日（金）19 名、10 月 13 日（木）26 名

③さかえ会館大人塾「立川市の震災対策とボランティア活動の役割」

さかえ会館管理運営委員会との共催で、立川市防災課による防災対策の講演と、災害ボランティアの活動についてのシンポジウムを開催した。終了後に災害ボランティアの活動に加入した参加者もいた。

日　　時　　平成 23 年 11 月 12 日（土）
会　　場　　さかえ会館
講　　師　　栗原　寛氏（立川市防災課長）
パネリスト　池永　一夫（立川市災害ボランティアネット）ほか
参　加　者　40 名

■課題解決のためのしくみづくり

○子育て支援のネットワークづくり

幸学習館運営協議会の委員として学習館事業に参画をしている。前年度好評だった子育て支援のプログラム「ママビクス＆ベビーマッサージ」を実施した。1 回の募集で 15 組の母子（対象は 2 ヶ月～6 ヶ月の乳児と母親）を定員とし同じ参加者で 3 ヶ月間、月に 2 回、全 6 回のプログラムを前期 7 月～9 月、後期 10 月～12 月に開催した。子どもが 2 ヶ月～6 ヶ月の時期に参加できる貴重な企画で募集開始後すぐに定員が埋まってしまい、ニーズを捉えた企画であると考えている。

プログラム終了後、前期のグループに対し支えあいサロン、市の社会教育関係団体、子ども家庭支援センターの子育てサークルへの登録を支援した。

けやき台小学校の総合的な学習の時間では、このグループの会員にゲストティーチャーとして「小学生と幼児の交流プログラム」に協力頂くなど、地域活動にも広がった。

また、前年度以来プログラム中のお母さんだけの体操の時間に、泣き出す乳児をあやすボランティアとして 8 名の方が参画した。協力いただいた方々とは、このプログラムに限らず、地域での子育て支援を考えて行きたい。

○災害時要援護者を地域で支えるしくみづくり

発災時には地縁が頼りになるが、それが薄くなっている地域での防災体制、特に要援護者の把握、救出、支援のしくみづくりが急務である。

・自治会連合会との連携

9/29（木）　自治連若葉町支部防災訓練打ち合わせ

2/10（金）　自治連栄町支部防災訓練打ち合わせ

3/27（火）　自治連栄町支部防災訓練反省会・・避難所運営組織について協力させて欲しい旨伝える

・単位自治会、マンションとの連携、情報提供など

若葉町団地、けやき台団地、栄町弁天北自治会、コスモガーデンズ管理組合、日の出自治会

・わかば地域包括支援センターとの協働

8/10（水）　小地域ケア会議で防災課の説明を聞く

10/11（火）　小地域ケア会議で防災関係の情報提供をする

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■講演会・学習会

①地域福祉講演会「第三の人生を生き生きと～"縁・熟期"を楽しむヒント～」

介護予防の意味合いも含めて退職後世代を主たる対象に、かみすな地域包括支援センターと共催で開催した。

日　時　　平成 24 年 1 月 14 日(土)

会　場　　西砂学習館

講　師　　大村洋永氏(至誠ホーム副ホーム長・市民活動センター運営委員)

参加者　　29 名

②家族介護者教室「きさらぎ会西原さんをお招きして」

かみすな地域包括支援センターが隔月で開催している家族介護者教室を拡大し、専門家主導ではない当事者の懇談の場づくりとして家族会主宰者を招いて開催した。

日　時　　平成 24 年 3 月 14 日(水)

会　場　　西砂学習館

講　師　　西原恵子氏(認知症高齢者を支える家族の会「きさらぎ会」代表)

参加者　　6 名

■地域団体との協働事業

①松中福寿会「熱中症予防講座」

松中団地孤立防止懇談会での協議をきっかけに松中団地老人会の活動の一環として、かみすな地域包括支援センター保健師を講師に開催した。

日　時　　平成 23 年 7 月 14 日(木)

会　場　　一番福祉会館
参加者　　15 名

②地域防災学習会「立川での災害を考える」
松中団地自治会及び立川市災害ボランティアネットと共催で実施した。団地住民以外に近隣の集合住宅からも参加者があり、今後の地域防災活動を広げるきっかけともなった。
日　時　　平成 24 年 3 月 18 日(日)
会　場　　松中団地大集会所
講　師　　矢野　和孝氏(立川市災害ボランティアネット)
参加者　　52 名

■課題解決のためのしくみづくり
○災害時要援護者を地域で支えるしくみづくり
平成 23 年 3 月 11 日の震災を受けて、災害時に近隣住民同士が助け合えるための取り組みが急務となった。特に高齢者や障害者、子ども、外国人など災害時において普段以上にサポートが必要となる人たちを支えるしくみづくりを本格始動させることとなった。
災害時を想定しての取り組みは、日常での孤立防止にもつながるという視点で引き続き、多様な機会を捉えて臨んでいく。
・松中団地防災訓練で号棟ごとの安否確認試行
5/29(日)、3/11(日)
・障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会　地域懇談会の継続開催
前述の通り
・自治会連合会との連携
10/15(土)　自治連西砂支部防災訓練で「要援護者交えご近所集合し避難所へ向かう」を試行
1/14(土)　七中避難所運営委員会、2/8(水)西砂小避難所運営委員会
2/17(金)　松中小避難所運営委員会に参加し協議
・立川市赤十字奉仕団エイドステーション立ち上げ訓練への参加
1/18(水)　一番町エイドステーション立ち上げ訓練に参加
・かみすな地域包括支援センターとの協働
5/16(月)　防災ネットワーク申し合わせ会で自治会、民生委員、近隣事業所、市議会議員立川市行政と懇談会
10/5(水)　小地域ケア会議で被災経験のある事業所からの報告会
11/24(木)　小地域ケア会議で事業所防災力向上ワークショップ開催

(5)寄せられる相談とコーディネーター活動について

制度やサービスの狭間にあること、担当窓口がはっきりと構築されていないもの、異分野・異業種をつなぐ必要があるもの、住民の自治力の発揮が必要とされるものが、コーディネーターに寄せられる相談の特徴である。

狭義の福祉領域や既存のシステムにとらわれず、住民と生活課題を主体にしながら進めている。

ひとつの相談から地域活動の創出が出来ること、共に取り組むパートナーが「個」「グループ」「専門機関」「当事者」「営利」「非営利」など、多彩であることが大きな強みである。

また、両地区とも地域包括支援センターに机を置いて協働しているのも大きな特徴である。協働内容は高齢者の介護予防的な取組みだけでなく、高齢者の家庭で子どもの問題や引きこもりの問題があれば適切な窓口を探したり、防災の取組みでは災害時要援護者への対応と位置づけて自治会活動への支援や介護保険事業者とのネットワークづくりを試みるなど、多くの点でそれぞれの資源と情報を持ち寄って協働している。

※相談件数の数え方は、1つの相談を1件とせず、1つの相談がある程度終了するまで時間をとって活動した回数としている。例えば1つの相談に関連して3回の訪問やコーディネートをした場合は3件となる。

《栄町・若葉町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4 月	41	18	5	1
5 月	47	27	1	2
6 月	65	42	3	0
7 月	68	36	1	5
8 月	62	30	9	5
9 月	37	27	3	2
10 月	56	41	7	1
11 月	44	19	4	6
12 月	56	20	6	8
1 月	69	27	3	6
2 月	73	35	6	8
3 月	65	26	4	5
合計	683	348	52	49

	各種相談（件）									月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	
4 月	6	0	1	0	0	1	1	0	20	29
5 月	1	2	0	0	0	1	2	5	16	27
6 月	4	0	0	0	0	1	2	8	17	32
7 月	4	0	0	0	0	0	5	2	15	26
8 月	9	0	0	0	0	0	1	2	21	33
9 月	1	1	0	0	0	0	2	3	10	17
10 月	2	0	0	0	0	0	1	2	19	24
11 月	2	0	0	0	0	0	1	6	16	25
12 月	8	1	1	0	0	1	0	4	21	36
1 月	11	1	0	0	1	1	2	7	14	37
2 月	9	2	0	0	0	3	3	2	21	40
3 月	3	0	0	0	0	0	2	4	21	30
合計	60	7	2	0	1	8	22	45	211	356

《上砂町・一番町・西砂町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4 月	111	25	9	12
5 月	68	25	12	4
6 月	74	28	10	5
7 月	64	25	3	8
8 月	66	16	4	6
9 月	83	33	2	12
10 月	76	24	3	9
11 月	96	41	12	29
12 月	75	37	4	11
1 月	78	38	4	10
2 月	79	39	3	8
3 月	93	48	4	16
合計	963	379	70	130

	各種相談（件）									月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	
4 月	7	3	2	0	0	0	3	14	32	61
5 月	3	1	1	0	0	2	1	5	12	25
6 月	2	1	2	0	0	3	1	6	13	28
7 月	3	0	0	0	0	0	1	3	9	16
8 月	3	1	0	0	1	1	0	3	24	33
9 月	5	1	2	1	1	1	4	3	18	36
10 月	3	0	0	0	1	0	1	3	20	28
11 月	7	2	2	0	0	0	8	1	34	54
12 月	5	1	0	0	0	0	3	1	36	46
1 月	3	0	0	0	0	2	3	5	31	44
2 月	8	3	1	1	0	2	3	3	28	49
3 月	15	0	0	0	0	0	0	3	27	45
合計	64	13	10	2	3	11	28	50	284	465

Ⅳ．4つの活動の柱

「運営委員会」 市民参画によるセンター運営

「協働の推進」「市民力と連携のまちづくり」を前

「地域づくり」 地域の課題を地域で解決するしくみづくり

「市民活動支援」 人と人とが参加し、つながりあう豊かな社会を

1．市民参画の運営委員会によるセンター運営

(1)運営委員会

市民によるセンター運営を進めていくため、センターのあるべき姿を探求しながら、事業の企画・推進・評価を市民による運営委員会で行った。また、3つの専門委員会である「課題解決実行委員会」「団体支援委員会」「事業推進委員会」でも、委員会自身が具体的実践活動を展開しながら「市民活動とは何か」を捉えなおし、豊かにし続ける場となっている。

■運 営 委 員

	20名　（氏名／選出時区分）
運営委員長	宮 本 直 樹／社会福祉協議会理事
副 委 員 長	岩 間 直 人／ボランティア団体
	井村　良英／特定非営利活動法人団体
	石 原 康 博／特定非営利活動法人団体
	海老塚　香／特定非営利活動法人団体
	大井あゆみ／企業
	小 川 和 美／関係行政機関
	江 夏　　馨／ボランティア団体
	大 村 洋 永／学識経験者
	菊池　寛樹／企業
	北 澤　　明／ボランティア団体
	酒井　克哲／企業
	佐 藤 達 夫／市民
	芝 田 達 矢／立川商工会議所
	島崎　京子／ボランティア団体
	豊 泉　　裕／市民
	廣瀬　麻美／特定非営利活動法人団体
	森下　公明／民生委員

山 尾 桂 子／市民
山 家 利 子／特定非営利活動法人団体

※平成 23 年 6 月までの任期
安藤　永一／企業
泉澤あい子／市民
岸野　有里／特定非営利活動法人団体
鈴木　　武／企業
筒井　　健／民生委員
松嵜奈津美／市民
村井　貴代／ボランティア団体

〇運営委員会　開催回数:　4 回

① 5/23(月)　平成 22 年度事業報告案について
② 6/30(木)　運営委員会と専門委員会について
③ 11/17(木)平成 23 年度上半期事業報告について
④ 3/23(金)　平成 24 年度事業案内について
平成 24 年事業計画(案)について

〇課題解決実行委員会　開催回数:8 回

センター開設から積み上げてきた相談や事業実績を分析し、解決すべきことは実行する。

① 5/20(金)　企業との協働「企業向けの社員教育プログラム」について
② 6/8(水)　企業との協働シンポジウム「あなたの会社も市民です（仮称)」について
③ 7/12(火)　企業との協働シンポジウム「あなたの会社も市民です（仮称)」について
④ 8/30(火)　企業との協働シンポジウム「あなたの会社も市民です（仮称)」について
⑤ 10/ 4(火)　企業との協働シンポジウム「あなたの会社も市民です（仮称)」について
⑥ 11/10(木)　企業との協働シンポジウム「あなたの会社も市民です（仮称)」について
課題解決実行委員会委員長の選任について
⑦ 1/20(金)　委員会の今後の進め方について
シンポジウムの報告と振り返り
⑧ 3/12(月)　新たなツールを用いた広報の方法について。(例. Face Book など)
市民活動センターへ寄せられる相談から見えてくる課題について
10 周年を見据えた市民活動センターの取り組みについて

〇団体支援委員会　開催回数:8 回

助成事業や市民活動団体向けの講座企画･実施など多様な団体支援の手法について検討を行なう。

① 4/22(金)　平成 22 年度助成金報告書の確認
② 5/13(金)　平成 23 年度助成金審査会

③ 8/ 9(火)　市民活動助成の振り返り
　　団体支援委員会の今後の方向性について
④ 9/27(火)　平成 23 年度助成金追加募集審査会
⑤11/ 8(火)　委員長の選任について
　　市民活動助成(追加募集)の振り返り
　　団体支援委員会の今後の方向性について
⑥12/16(金)　団体支援委員会の今後の取り組みについて
⑦ 1/26(木)　団体登録制度について
⑧ 3/ 2(金)　団体登録制度について

○事業推進委員会　開催回数:11 回

おもしろボランティア大学や市民活動団体との協働企画などを検討、実施した。

① 4/ 12(金)　第 28 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」について
② 6/ 3(金)　第 28 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」振り返り
　　平成 22 年度事業推進委員会振り返り
　　平成 23 年度事業推進委員会について
③ 8/ 5(金)　第 29 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」について
④ 9/16(金)　第 29 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」について
⑤ 10/6(木)　第 29 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」について
　　第 30 回おもしろボランティア大学について
⑥ 11/14(月)　委員長選出について
　　第 29 回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」振り返り
　　第 30 回おもしろボランティア大学「演奏会ボランティアスタッフ」について
　　第 31 回おもしろボランティアの企画について
⑦ 12/5(月)　第 30 回おもしろボランティア大学「演奏会ボランティアスタッフ」について
　　第 32 回おもしろボランティア大学の企画について
⑧ 1/16(月)　第 30 回おもしろボランティア大学「演奏会ボランティアスタッフ」振り返り
　　第 31 回おもしろボランティア大学「楽市案内人」について
⑨ 2/27(月)　来年度に向けて
　　第 31 回おもしろボランティア大学「楽市案内人」について
　　第 32 回おもしろボランティア大学の企画について

2. 協働の推進

(1)市民と行政との協働の推進

■たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への支援

平成 16 年 4 月に廃校となった旧立川市立多摩川小学校について、市民の声を反映した跡地の活用方法の実現を目的に市民委員会が発足し、提言を平成 18 年 1 月に市長へ提出した。

平成 18 年 4 月からは旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足。センターは、基本コンセプトの具現化や市民と行政との新しい協働型の運営、運営体制、施設・設備管理・プログラム実施に関するルールをまとめていくための支援を担った。

平成 19 年度から、市民会議に関わった市民を中心に「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が立ち上がり、プログラムの企画・実施などの運営を行なっている。センターは市民、行政と協働しながら施設を運営していくために、定例会への参加などを通じて側面的な支援を行なった。

■春・秋の楽市

国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンで、春と秋に開催される楽市の企画運営委員会に所属して、市民活動団体のＰＲや財源確保の場を提供するために、団体出店の取りまとめを行った。

日　　時　　①春の楽市　平成 23 年 4 月 24 日(土)
　　②秋の楽市　平成 23 年 11 月 5 日(土)・11 月 6 日(日)
場　　所　　国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン
参加団体　　市民活動センターたちかわ登録団体
　　春の楽市　10 団体　②秋の楽市　21 団体

■駅前放置自転車クリーンキャンペーン

立川駅近くの小学校のうち総合的な学習の時間などで障害のある人との交流を行った学校に広報し、障害のある人と共に自転車を放置しないように呼びかけるパンフレットを配布した。

日　　時　　平成 23 年 10 月 24 日(月)
参 加 者　　第一小学校・・第三小学校・第五小学校・第七小学校・第一中学校の児童 12 名

(2)関係機関・団体との協働事業の実施や支援

関係機関・団体の定例会への参加や協働事業などを通して地域課題の解決を図った。

・立川市民生委員・児童委員協議会地区定例会
・立川市地域ケア会議
・立川市小地域ケア会議
・立川市地域包括支援センター介護予防業務連絡会
・立川市子ども支援ネットワーク
・立川市地域学習館運営協議会
・タチカワコミュニティビジネスプロジェクト
・多摩コミュニティビジネスネットワーク

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会

千葉県では、平成 18 年に「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が日本で初めて制定された。立川でも、同様の条例をつくりたいと障害者団体からの呼びかけがあり、障害種別を超えて市内の障害当事者や親の会、事業者などが協働し「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」が結成された。

障害についての理解を深め、障害ゆえの差別とは何かを市民と共に考え啓発する学習活動と、地域での懇談会などの開催を続けている。

現在活動を進めている団体は、立川麦の会、立川市肢体不自由児・者父母の会たつのこ、立川市手をつなぐ親の会、NPO 法人自立生活センター立川、一般社団法人 animo、立川市社会福祉協議会の 6 団体。

〇講座企画

日　　時　　平成 23 年 9 月 30 日(金)

場　　所　　立川市総合福祉センター

内　　容　　「教育における障害者の差別を考えるワークショップ」

講　　師　　南舘こずえ氏（内閣府障がい制度改革推進会議担当室　政策企画調査官）

〇定例会、地域懇談会等　　39 回開催

■その他の協働事業

地域団体や NPO と活動分野を超えて結びつき、まちづくりの協働者として共に事業を進めた。

協働を通して、団体の財源確保や次の活動展開を探る場とした。

〇東日本大震災チャリティーイベントの開催

立川商工会議所、スマイル農園との協働により開催。

日　　時　　平成 23 年 7 月 30 日(土)

内　　容　　講座やコンサートの開催

参 加 者　　100 名

(3)企業等との協働事業の実施や企業の社会貢献活動の支援

■ふれあいミュージックフェスティバル 2011

東京ガス㈱多摩支店、国立音楽大学との協働により平成 23 年度で第 19 回目の開催を迎えた。

この催しは障害のある方や、日頃クラシックコンサートに接しにくい方でも安心して参加できる取り組みとして開催している。当日の運営に多くのボランティアに協力いただき、車椅子･ストレッチャーを使用されている方の会場誘導などを行っている。

例年楽しみにされている市民が多く、当日アンケートに寄せられる声からも満足度は高い。また市内福祉施設で、当日の来場が難しい方へ国立音楽大学学生による出張コンサートを実施し好評を得た。

開 催 日　　平成 23 年 12 月 24 日(土)

会　　場　　国立音楽大学講堂・大ホール

内　　容　　ブラスバンドによるクリスマスフェスティバル、ハンドベル演奏、

ジャス専攻による演奏など

来 場 者　1,276 名

入 場 料　無料

ボランティア　25 名　車椅子の方の介助に「育て上げ」ネット 6 名の協力を得た。

プレコンサート　① 10/1(土)　介護老人福祉施設　フェローホームズ／声楽・ピアノ演奏

②10/15(土)　スマイルくらぶ/声楽・ピアノ演奏

③10/29(土)　介護老人保健施設　わかば/フルート三重奏

④11/12(土)　介護老人福祉施設　キートスホーム/サックス四重奏

⑤11/19(土)　地域デイサービス　テイクオフ/木管五重奏

特別協賛　東京ガス株式会社　多摩支店

後　援　立川市、国立音楽大学、㈶立川市地域文化振興財団、読売新聞東京本社立川支局

■企業の CSR 活動や社員研修への協力

企業から寄せられる「寄附がしたい」「CSR(企業の社会的責任)活動がしたい」「社会貢献できる人材育成プログラムを実施したい」といったご相談を受け、実施のための支援を行った。

〇CSR 活動のご相談

カミンズジャパン（株)、美容院 HAREKE、小沢加工所（有)、東京司法書士会三多摩被災者支援委員会、立川商工会議所、スマイル農園など

〇社員研修への協力

・三菱東京 UFJ 銀行

内　容　市内 9 ヶ所の施設・団体で 45 名の新入社員がボランティア体験

日　時　平成 23 年 5 月 24 日(火)・5 月 26 日(木)、5 月 27 日(金)

協力団体　フェローホームズ、やわらぎホーム・西立川、ワークセンターまことくらぶ、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、花音、「育て上げ」ネット、星槎国際高等学校立川学習センター、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービス、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所

(4)各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣

■関係機関が主催する委員会等へのセンタースタッフの参加

関係団体や行政機関などが主催する各種委員会、研究会にセンタースタッフ自身が参画することで、新たなニーズや情報を掴み、ネットワークづくりをする機会とした。

・立川市地域福祉計画推進委員会

・スポーツ祭東京 2013 立川市実行委員会

・立川市駅前滞留者対策推進協議会

・立川市人権学習事業実行委員会

・立川市交通マスタープランの会議

・西武立川駅周辺ユニまちソフト事業連絡調整会議

・立川市防災モデル地区推進事業
・柴崎町合同防災訓練実行委員会
・錦町防災訓練実行委員会
・幸児童館運営委員会
・「楽市」企画運営委員会
・世界ふれあい祭実行委員会
・砂川高校定時制課程学校運営連絡協議会
・砂川高校定時制課程学校評価委員会
・東京ボランティア・市民活動センター　センター長会議
・東京ボランティア・市民活動センター　事務局連絡会議
・東京ボランティア・市民活動センター　運営委員会
・北多摩西部ブロックボランティア担当者会議
・夏体験ボランティア　市区町村　担当者連絡会議
・災害ボランティア担当者連絡会議
・NPO 担当者連絡会議
・地域における若者支援のための体制整備モデル事業地方企画委員会

■センタースタッフによる講師等の派遣

関係団体が実施する講座、講演会等にスタッフを派遣し、協働した。

・三菱東京 UFJ 銀行新任社員研修
・白梅学園大学
・地域福祉学会シンポジウム
・東京ボランティア・市民活動センター新任職員研修
・立川市教育委員会教育相談室相談員研修
・武蔵野市
・調布市
・東京都社会福祉協議会地域福祉コーディネーター養成研修
・群馬県社会福祉協議会
・社会福祉法人恵比寿会職員研修
・夢たち応援団キッズプレイワークショップ「ちちんぷいぷい遊び場になあれ！市役所屋上編」
・結サポートセンター会員向け学習会
・小地域ケア会議(第 1 地区/富士見町・柴崎町)
・コープくらしの助けあいの会　障害者への介助研修

(5)小中学校の介助員事業の充実とコーディネート

立川市が配置していた小中学校の介助員は、平成 22 年度から、高齢者や障害者にヘルパーを派遣している事業所の職員が配置されることとなった。センターは新制度導入にあたって、立川市教育委員会、学校、事業所間のコーディネートを行った。

■介助員にかかる、市と事業者、学校間のコーディネート

・対象校／10 校

第一小学校、第三小学校、第六小学校、第八小学校、第九小学校、けやき台小学校、西砂小学校、大山小学校、上砂川小学校、新生小学校

・対象児童・生徒／14 名

・事業者数／6 事業者

特定非営利活動法人　ケア・センターやわらぎ・立川

社会福祉法人にんじんの会　ケアステーションにんじん・立川

社会福祉法人にんじんの会　ケアステーションにんじん・玉川上水

医療法人社団東京石心会　立川介護老人保健施設わかば

一般社団法人 animo

社会福祉法人立川市社会福祉協議会　在宅サービス係

○会議等の開催／29 回

・事業者連絡会議／1 回

・教育委員会等との会議・打合せ／3 回

・学校、保護者、事業者等との会議・打合せ・面談／25 回

・介助員研修／2 回

3. 地域づくり

(1)地域懇談会の開催

■町単位での取り組み

○栄町・若葉町

○上砂町・一番町・西砂町

「2. 平成 22 年度の地域福祉コーディネーターの取組み」に前掲。

○幸町

	日時・会場	主な協議内容
1	平成 23 年 4 月 5 日(火) 立川市役所　　参加者 2 名	・今後の取り組みについて
2	平成 23 年 5 月 21 日(土) 幸学習館　　参加者 9 名	・防災の講座について ・チャリティーイベントについて
3	平成 23 年 5 月 26 日(木) スマイル農園　　参加者 3 名	・チャリティーイベントについて
4	平成 23 年 6 月 4 日(土) 幸学習館　　参加者 12 名	・防災の講座実施日
5	平成 23 年 7 月 4 日(月) 幸学習館　　参加者 7 名	・防災の講座振返り ・チャリティーイベントについて

6	平成 23 年 7 月 30 日(土) スマイル農園　　参加者 6 名	・チャリティーイベント実施日 （イベント参加者 100 名）
7	平成 23 年 9 月 6 日(火) 幸学習館　　参加者 9 名	・今後の取り組みについて
8	平成 23 年 10 月 7 日(金) 幸学習館　　参加者 11 名	・立川断層に関する講座について ・事業所との連携について
9	平成 23 年 11 月 8 日(火) 参加者 3 名	・立川断層に関する講座について （講師打ち合わせ）
10	平成 23 年 11 月 18 日(金) 幸学習館　　参加者 14 名	・立川断層に関する講座について ・事業所との連携について
11	平成 23 年 12 月 6 日(火) 幸学習館　　参加者 11 名	・立川断層に関する講座について ・事業所との連携について
12	平成 24 年 2 月 6 日(月) 幸学習館　　参加者 7 名	・立川断層に関する講座について ・事業所との連携について
13	平成 24 年 2 月 25 日(土) 幸学習館　　参加者 41 名	・立川断層に関する講座実施日
14	平成 24 年 3 月 16 日(金) 幸学習館　　参加者 9 名	・講座の振返り ・事業所調査について

■地区単位での取り組み

「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」（前掲）と協働して、地区単位で懇談会を行った。

○1 地区（富士見町・柴崎町）

・6/8　参加者 4 名、7/7　参加者 50 名、9/16　参加者 35 名

○2 地区（錦町・羽衣町）

・6/29　参加者 7 名、8/1　参加者 7 名、8/23　参加者 33 名、9/20　参加者 10 名、
10/18　参加者 19 名、11/1　参加者 4 名、11/8　参加者 10 名、2/28　参加者 42 名

○3 地区（曙町・高松町・緑町）

・4/12　参加者 3 名、4/28　参加者 6 名、6/30　参加者 24 名、11/14　参加者 3 名、
12/19　参加者 31 名

○4 地区（栄町・若葉町）

・6/27　参加者 6 名、8/26　参加者 10 名、10/21　参加者 17 名

○5 地区（幸町・柏町・泉町・砂川町）

・4/27　参加者 27 名、７/13　参加者 33 名、2/14　参加者８名、3/14　参加者 9 名

○6 地区（上砂町・一番町・西砂町）

・4/26　参加者 16 名、5/16　参加者 14 名、5/24　参加者 15 名、6/28　参加者 14 名、
７/21　参加者 25 名、9/4　参加者 4 名、9/8　参加者 16 名、10/12　参加者 14 名、
11/29　参加者 10 名、１/27　参加者 6 名

(2)グッドネイバー運動推進団体、地域関係団体との連携

市民が地域の中で、共に学び、参加し、支え合うまちづくりをすすめる目的で、市内4ヵ所（栄町、若葉町、柴崎町、西砂町・一番町）にグッドネイバー運動推進団体を指定し、活動費の助成や情報交換を行っている。平成16年に行なった本会の地域福祉市民活動計画及び立川市の地域福祉計画の策定時は、この4地区で地域懇談会を開催し、両計画に反映させた。

平成19年度からは栄町・若葉町、平成22年度から上砂町・西砂町・一番町を対象に地域福祉コーディネーターが配置され、連携を図りながら地域活動を展開している。

西砂町・一番町では松中小学校内ふれあい交流室での子どもの見守り活動が定着し、地域の中で大きな力となっている。また、柴崎町では学校と地域のつなぎ役として子どもの居場所づくりだけではなく、地域の人材育成などの機能も果たしている。本センターとしては、地域での協議の場をつくり出すような役割を引き続き果たしていくことも期待している。

(3)住民グループの組織化支援

■支えあいサロンの推進

市民の孤立を防ぎ、身近な地域の中で緩やかなつながりを継続できる場として、隣近所単位のたまり場活動である「支えあいサロン」の運営を支援している。

登録グループは、子育て中の人が多く集うサロンと、高齢者中心のサロンとに分けることができる。開催されているサロンの中には、防災活動やサロン開催時以外の時間帯での見守り活動につなげる取り組みをしているところもあり、地域への波及効果の高さを改めて認識できた。今年度は高松町、曙町において健康体操や高齢者中心のサロンや子育てのサロンが増え、登録サロン数は昨年度に比べ26団体増加した。高齢社会における重要な取り組みの一つであるので、今後も新たな人材発掘にも力を入れ、一つでも多くサロンが立ち上がるよう支援していきたい。

○登録サロン数　90ヶ所

・高齢者サロン：63ヵ所

・子育てサロン：24か所

・その他のサロン：3ヵ所

(4)学校を核とした市民学習支援、地域づくり

市内の小中学校から依頼を受けて、総合的な学習の時間や一般科目の中で、福祉教育、市民学習に関する、学校と市民のコーディネートを行った。この取り組みは、NPO 法人自立生活センター・立川、障害当事者、地域の高齢者、市民活動団体の活動者、商店街店主、行政職員など、さまざまな市民と協働して進めている。

数年来の取り組みの中では、肯定的な変化として地域の支援者が着実に市民学習を支援する力をつけていることが挙げられる。それは生徒たちとのやり取りが向上したということに留まらず、学校との打合せにおいてプログラムを協働で作成する力や、コーディネートをする力も身に付いているということである。プログラムの内容についても、学校の実情に合わせて臨機応変に作成してきたため、経験が蓄積されている。

また、学校におけるプログラム実施の中で、地域の課題にも触れることが多くある。と同時に、学校の抱える悩みは、地域の状況を反映しているともいえる。学校での取り組みは、地域の教育力を高める機会でもあると捉え、単にプログラム提供に留まらず、住民を視野に入れて活動をしてきた。今後は、立川市社会福祉協議会の使命「住民主体による福祉コミュニティづくり」を推進していくため、地域の支援者が主体となる市民学習支援のコーディネートを展開していく。

■学校への学習支援や出前講座の実施（相談のみも含む）

学校と学年	期間	プログラム作成協力	協力者のコーディネート	プログラムの分野 又は紹介した講師や協力者	機材貸し出し協力	職員派遣回数
二小　4年	10月		6名	車椅子使用者・視覚障害・聴覚障害のある人との交流	車椅子	2
三小　3年	12-2月		7名	視覚障害のある人・聴覚障害のある人・車椅子使用者との交流	車椅子	1
四小　2年	9月	○	4名	高齢者擬似体験、総合福祉センターの見学	高齢者擬似体験セット	2
4年	1月	○	4名	総合福祉センターの見学、視覚障害のある人との交流	無	2
4年	2月	○	3名	視覚障害者のある人との交流	アイマスク	3
6年	11月	○	3名	高齢者擬似体験	無	2
七小　3年	6-7月		6名	視覚障害のある人・聴覚障害のある人・車椅子使用者との交流	車椅子	1
八小　2年	2－3月	○	1名	車椅子使用者との交流	無	1
南砂小	5月	○	2名	高齢者との交流、視覚、車椅子使用者との交流	高齢者疑似体験セット	2
けやき台小	10-2月	○	18名	高齢者、視覚・車椅子使用者・外国の人、子育て中の人との交流	高齢者疑似体験セット	5
松中小 6年	11月	○	1名	認知症サポーター養成研修	無	2
一中　2年	12-1月	○	1名	福祉施設での職場体験	無	1
二中　2年	9-10月		6名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子、アイマスク	1
七中　2年	6月	○	6名	福祉作業所利用者とスタッフ、ホームヘルパー、高齢者施設職員との交流、	無	5
八中 1-3年	3月	○	9名	視覚障害のある人、聴覚障害のある人との交流、ケアマネージャーから高齢者について学ぶ	無	5
相談学級	10月		2名	聴覚障害のある人との交流	無	2
九中　2年	10月			ボランティアに関する調査	無	1

■立川市教員研修への協力

立川市教育委員会が主催する福祉教育をテーマにした参加型・体験型学習の研修に協力した。平成12年から、地域の障害のある方々に協力をいただきながら実施してきた。実施方法も定着してきたことから、NPO法人自立生活センター・立川が中心となり、教員の資質向上に寄与した。

日　　時　　平成 23 年 8 月 5 日(金)
場　　所　　総合福祉センター　視聴覚室
参 加 者　　立川市および近隣市の教員 14 人
内　　容　　・「出前講座」の取り組み
　　・「発達障害」のある当事者からの視点
主　　催　　立川市教育委員会・NPO 法人自立生活センター・立川

■都立高校の奉仕体験活動の支援

都立高校において導入された奉仕体験活動への具体的なプログラム作成の協力や、社会資源の情報提供を市内の 3 校（5 課程）に対して行なっている。平成 19 年度に実施されてから、学校と協力者や市民活動団体とのつながりができ、より効果的なプログラムづくりができている。

○各校での取組みについて

学校名（課程）と実施学年	取組み内容と協力団体
立川高校（全日制） 1-3 年生約 960 名	・多摩川及び立川高校周辺の清掃活動 ・中学生向け部活動体験 ・保育園での活動支援（愛光あけぼの保育園） ・環境保全活動（玉川上水の自然保護を考える会） ・小学生への夏休み宿題教室支援（学ボラの会）
立川高校（定時制） 3 年生約 80 名	・傾聴トレーニング（社団法人日本産業カウンセラー協会） ・国際協力・理解（一橋大学留学生交流サークルすなふきん等） ・環境（『キャップの貯金箱』推進ネットワーク） ・職業（NPO 法人「育て上げ」ネット）
立川国際中等教育学校（全日制） 4 学年 160 名	・環境(『キャップの貯金箱』推進ネットワーク) ・地域美化(昭和記念公園、河川敷清掃活動) ・地域防災(立川市災害ボランティアネット)
砂川高校 （単位制 1 部、2 部 3 部） 1 年生 120 名 2 年生 130 名	・環境保全活動（『キャップの貯金箱』推進ネットワーク） ・若者の就労(NPO 法人「育て上げ」ネット) ・障害のある人との交流 （市内在住の車椅子使用者、市内在住の視覚障害者） ・進路についての講話（市民活動センター職員）
砂川高校（通信制） 2 年生 100 名	・働くことについて(写真家　富澤享氏/美容院 HAREKE　浅沼章氏) ・障害者について（立川市手をつなぐ親の会）

(5)地域コミュニティ防災活動等への住民参加の促進とネットワークづくりの推進

地域での防災・防犯に関する懇談会やまち歩きなどを開催したほか、立川市災害ボランティアネットと連携して、防災活動のネットワークづくりを推進した。また、防災モデル地区事業や、小学校を拠点とした町単位での地域防災訓練などへ参画し、住民参加を促進した。

■懇談会、まち歩き等の開催、協力

・自治会などでの防災学習会の開催

・立川市防災モデル地区推進事業への参画

・地域防災訓練への参画

■立川市災害ボランティアネットとの連携

平成 21 年より、被災地を支援した経験のある市民を中心に、立川市及び首都圏での震災発生に備えたネットワークづくりの準備会として活動してきたが、昨年の震災を機に正式に発足した。地域懇談会での災害に備える啓発活動や、発災時の災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定への協力、立川市赤十字奉仕団のエイドステーション立ち上げ訓練参加、定例会の開催など、社会福祉協議会と連携した活動を行っている。

・講座の開催「備えよう・大地震!!東日本大震災への支援活動から」

日　　時　　平成 23 年 6 月 11 日（土）

会　　場　　立川市役所 101 会議室

参 加 者　　80 名

内　　容　　①現地支援報告（立川市災害ボランティアネット＆立川市社会福祉協議会）

②被災者の受入れと支援（大山団地自治会）

③立川市内の被害と支援活動

防災対策と私たちの備え（立川市防災課）

④市民が「無理なくできる災害ボランティア」(立川市災害ボランティアネット)

⑤意見交換

(6)地域コミュニティ活性化事業

これまで、市民活動センターたちかわでは、ボランティアをしたい個人や市民活動団体への支援を行ってきたが、企業の CSR 活動への支援が課題となっていた。企業は、経済活動を担うだけでなく、様々な地域貢献や社会貢献などの取り組みも活発に行い、まちづくりを担う一員としての存在となっている。そこで、立川市地域コミュニティ活性化事業の目的に照らし合わせ、①企業の地域貢献や社会貢献を通して、社員一人ひとりがまちづくりを担う市民としての意識を向上させ、地域を支える人材の育成や地域活動への参加を促進し、コミュニティの活性化を図っていく。②企業もまちづくりの一端を担う存在ということを企業や地域、NPO と共有する場とする。③上記課題に取り組む際の工夫や、市民、NPO、行政、企業の連携のあり方を探る。ことを目的にシンポジウムを開催した。

■地域コミュニティ活性化シンポジウム

「うちの会社も市民です～地域の“絆”を生み出す企業の取り組み～」

日　　時　　平成 23 年 12 月 3 日（土）

会　　場　　立川市役所 101 会議室及び多目的プラザ

参 加 者　　シンポジウム　55 名

交流会　　20 名

内　　容　①基調講演「企業とまちづくり」

講師：高橋　陽子氏（公益社団法人　日本フィランソロピー協会　理事長）

②事例報告

藤解　和尚氏（株式会社ジェーシービー）

長島　剛氏（多摩信用金庫）

南谷　尚氏（株式会社弘久社）

③パネルディスカッション

④交流会

4. 市民活動支援

(1)ボランティア情報提供希望者および登録グループとの連携

■ボランティア情報希望者

ボランティア情報提供希望者には、個別に対応し、希望に合わせて具体的な情報を引き出し、活動につなげるように努めている。

■登録グループ

主に立川を拠点として活動している NPO 法人やボランティアグループなどの市民活動団体の登録制度を設け、情報交換を密にすることで連携を深めた。また、市民活動団体の活きた情報を広く市民に公開するため、ホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営や「市民活動センター★たちかわ通信」の発行、『登録グループ紹介 BOOK』を発行した。このほかにも、市内福祉施設でのボランティア活動情報を掲載した『小さな思いが大きな輪に』の発行や助成事業、機材の貸出し、市民活動団体マネジメント講座の開催など、市民活動団体それぞれの活動がより充実するための連携を図っている。

○登録グループ　　158 グループ（6,359 名）

・障害のある人や高齢者、医療に関するグループ　46 グループ(2,276 名)
・こどもや子育てに関するグループ　29 グループ(1,167 名)
・環境に関するグループ　10 グループ(253 名)
・文化・スポーツに関するグループ　31 グループ(1,398 名)
・多文化共生に関するグループ　2 グループ(152 名)
・地域づくり・まちづくりに関するグループ　32 グループ(741 名)
・いろいろな相談事業に関するグループ　8 グループ(372 名)

(2)おもしろボランティア大学の開催

多様な市民活動を行なう団体を講師に迎えたり、地域イベントのスタッフとして参加したりして、市民活動に触れるきっかけをつくると共に、ボランティア活動のきっかけづくりや登録団体の活動紹介、その場に集まった参加者の学びあいの機会をつくります。

○第28回おもしろボランティア大学
開催日　　平成23年4月24日（日）
会　場　　春の楽市
参加者　　14名
テーマ　　「楽市を104倍楽しむ楽市案内人になろう！！」
講　師　　市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

○第29回おもしろボランティア大学
開催日　　平成23年11月5日（土）、6日（日）
参加者　　19名
テーマ　　「楽市を105倍楽しむ楽市案内人になろう！！」
講　師　　市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

○第30回おもしろボランティア大学
開催日　　平成23年1月8日（日）
会　場　　市民会館
参加者　　15名
テーマ　　「東日本大震災チャリティー演奏交流会　ボランティアスタッフ大募集！」
講　師　　和太鼓趣　奥住秀樹氏
　　市民活動センターたちかわ運営委員・市民活動センターたちかわスタッフ

（3）ボランティア体験プログラムの実施

■夏！体験ボランティア 2011

市民のボランティア活動のきっかけづくりを目的として、夏休み期間を中心に市内の福祉施設や市民活動団体と連携をとりながら実施した。

福祉分野以外の団体からも体験プログラムの提供を得ており、充実している。

参加者の傾向として、市外在住者が半数以上をしめて、近隣の学生層は市民活動センターたちかわのホームページから情報を得ている。小中学生向けにも PR しているが、小学生のプログラムが少ないため、今後、受け入れ施設と検討していく。

○開催時期　　7 月～8 月を中心とした夏期
○活動メニュー　市内の受入れ施設・団体等　59 団体　107 プログラム
○参 加 者　　161 名

（4）市民活動情報の受発信機能強化

■ボランティア・市民活動情報コーナーの設置

総合福祉センター2 階に、自由に情報や書籍を閲覧したり、チラシなどを入手したりできるボランティア・市民活動情報コーナーを設置している。また、情報検索ができるコーナー「フリースポット」も運営し、市民が気軽に情報を入手できるようにしている。活動分野・内容・形態ともに多様

な団体が情報を寄せてくださるようになっている。

豊富な情報収集と同時に、必要としている情報を絞り込んだり、新たな情報を引き出したりすることもセンターの役割である。

○情報数　　約 1,500 （まちづくり/保健・医療・福祉/多文化共生・海外支援/生涯学習/こども/環境・動物保護/災害援護活動/文化・芸術・スポーツ/人権/NPO/ボランティア募集/職員募集/資格取得/組織マネジメント/ファシリテーションなどのテーマに関する情報）

■市民活動センターホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営

これまで市民活動センターたちかわのホームページ『市民活動 WEB たちかわ』を開設・運営してきたが、平成22年7月より立川市社会福祉協議会のホームページと統合し、リニューアルを図った。

インターネット上にてボランティアの募集情報や市民活動団体のイベント情報などを配信。登録した市民活動団体については、団体自身のパソコンで情報配信できる仕組みは継続して活用している。

団体からの情報発信が増加すると同時に、ホームページの閲覧をきっかけに活動への参加につながることが年々増加している。

■市民活動センター情報紙「市民活動センター★たちかわ通信」

ボランティアや NPO に関する取材記事、情報を毎月 1 回、情報紙として発行した。

市民が自由に手にできるよう、図書館、学習館などに設置すると同時に、市内協力店にも設置しているほか、関係機関、市民活動団体などには直接送付している。また、読売新聞立川北部サービスセンターの協力により、栄町、高松町、曙町の一部においては新聞折り込みにより配布している。

年 5 回（5 月、7 月、10 月、12 月、2 月）は、立川市社会福祉協議会の機関紙である「あいあい通信」内に情報を掲載して市内全戸配布している。団体からは、開催する講座やボランティア募集のお問い合わせをいただいたという声が寄せられ、活動されている。

平成23年度は、立川市内の小中学校に年3回「市民活動センター★たちかわ通信学校便」を発行し、総合学習や夏！体験ボランティア、ふれあいミュージックフェスティバルなど、社会福祉協議会の活動を紹介した。

・市民活動センター★たちかわ通信　　5,600 部×7 回　計 39,200 部
・市民活動センター★たちかわ通信学校便　13,000 部×3 回　計 39,000 部
・あいあい通信に情報掲載　　76,000 部×5 回　計 380,000 部

■市民活動団体リスト・ボランティア受け入れ団体リスト作成

市民活動センターたちかわ登録団体の紹介冊子「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」を発行している。

○「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」　掲載団体　158 団体
○ボランティア紹介冊子「小さな思いが大きな輪に」　掲載団体　53 団体

(5)市民活動向け講座・研修会等の開催

■NPO 法人設立ガイダンス

NPO 法の解説・法人化の意義・設立に向けた手順や事務についての内容で、年 3 回、平日夜間に開催。参加団体の活動分野は多岐にわたる。「NPO とは何か」を入り口に多様なグループ運営の相談・質問が持ちかけられる場となっている。

ガイダンスだけでは「日程が合わない」「個別に解説してほしい」という声も多く、適宜、窓口でも相談を受け付けている。

参加者延べ人数　34 名（市内在住・在勤 24 名、近隣 10 名）
参加者層　実際に法人化を考えている団体、NPO の仕組みが知りたい市民
多い質問　「NPO 法人と他法人の違いは?」「役員・社員の規程について」
「収益事業や課税について」「新会計基準について」

	開催日時	参加者数	参加者の活動分野
①	平成 23 年 6 月 2 日(木)	9 名	環境の市民団体、高齢福祉施設、大学生
②	平成 23 年 10 月 27 日(木)	5 名	被災地復興支援、語学教室
③	平成 24 年 2 月 23 日(木)	20 名	高齢者施設、障害関係 NPO 法人、難病患者会

■NPO 法人・非営利団体のための運営実務あれこれ講座

柔軟で特徴ある市民事業を起こす NPO 法人や非営利団体が増加している一方、運営実務能力については悩みを抱えている団体が多い。本センターで行っている NPO ガイダンスや運営相談利用者からも、会計・税務・労務・定款のつくり方などに関する専門講座開催を望む声が多いため、運営基盤づくりの支援策のひとつとして開催している。

開催日　①平成 24 年 2 月 23 日(木)　②2 月 28 日(火)　③3 月 3 日(土)　④3 月 8 日(木)
会　場　総合福祉センター　視聴覚室
内　容　①NPO 法人設立ガイダンス　講師：市民活動センターたちかわスタッフ
②定款のつくり方　講師：池澤良子氏
（東京ボランティア・市民活動センタースタッフ）
③NPO 法人と会計・税務　講師：内藤純氏(公認会計士・税理士)
④NPO 法人と労務　講師：井嶋栄治氏(社会保険労務士)
参加者　①20 名　②20 名　③27 名　④22 名

(6)市民活動団体成事業の実施

市民活動団体にとって活用しやすい助成事業を目指し、平成 22 年度に検討してきた新しい助成事業を平成 23 年度より実施。市民活動団体の立ち上げ資金や事業費について、運営委員による審査会にて、助成の可否を決定した。

○ファーストステップ助成　　7団体　　350,000円
○事業継続支援助成　　12団体　　600,000円

団　体　名	申請区分	助　成　額
東京立川断酒新生会	社会福祉に関する普及啓発活動	50,000円
ボランティア　さくら	社会福祉に関する普及啓発活動	50,000円
一般社団法人 市民の学習・活動・交流センター　シビル	市民交流事業	50,000円
立川家庭教育を考える親の会	ファーストステップ助成	50,000円
三多摩市民後見を考える会	ファーストステップ助成	50,000円
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民交流事業	50,000円
たちかわエコパートナー	ファーストステップ助成	50,000円
チャイルドラインたちかわ	市民交流事業	50,000円
立川市聴覚障害者協会	社会福祉に関する普及啓発活動	50,000円
社会教育団体MOI	ファーストステップ助成	50,000円
地域デイグループ　スマイルくらぶ	社会福祉に関する普及啓発活動	50,000円
フリー談話室　さぼう	ファーストステップ助成	50,000円
そば打ち友の会	ファーストステップ助成	50,000円
特定非営利活動法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民交流事業	50,000円
地域デイサービス　テイクオフ	市民交流事業	50,000円
シャンソンクラブ　りら	市民交流事業	50,000円
立川市ラジオ体操協会	ファーストステップ助成	50,000円
立川親と子のよい映画をみる会	市民交流事業	50,000円
和太鼓『趣』	市民交流事業	50,000円

■民間助成の周知

民間団体の助成情報を、市民活動センターのホームページや広報紙に掲載するほか、各団体に個別に送付し、市民活動団体やボランティアグループに周知した。また助成に推薦が必要な場合は、社会福祉協議会の使命の添った活動であるかを精査し、推薦を行った。

(7)事務機器等の貸出機材の整備

■機材の貸出し

・印刷機・拡大印刷機

市民活動支援の為、機材の貸し出しを行った。印刷機、拡大印刷機の利用件数は昨年度とほぼ同数であった。

＜利用実績＞

	印　刷　機		拡大印刷機	
4 月	42 件	17,930 円	12 件	3,010 円
5 月	35 件	15,310 円	8 件	4,330 円
6 月	40 件	11,400 円	10 件	6,610 円
7 月	33 件	10,800 円	6 件	2,860 円
8 月	31 件	14,550 円	3 件	1,470 円
9 月	36 件	16,850 円	11 件	6,150 円
10 月	31 件	13,050 円	16 件	16,480 円
11 月	29 件	12,700 円	14 件	7,960 円
12 月	14 件	5,650 円	7 件	7,450 円
1 月	28 件	11,000 円	15 件	11,090 円
2 月	34 件	15,900 円	7 件	3,230 円
3 月	36 件	19,300 円	10 件	4,420 円
合計	389 件	164,440 円	114 件	75,060 円

・パソコン・図書・車椅子の貸出し

＜利用実績＞

	パソコン	図　　書		車椅子の貸出し	
4 月	22 件	3 件	5 冊	2 件	24 台
5 月	14 件	2 件	3 冊	3 件	23 台
6 月	18 件	4 件	11 冊	3 件	9 台
7 月	24 件	0 件	0 冊	2 件	13 台
8 月	15 件	2 件	4 冊	0 件	0 台
9 月	24 件	3 件	4 冊	3 件	28 台
10 月	36 件	0 件	0 冊	6 件	52 台
11 月	16 件	0 件	0 冊	4 件	36 台
12 月	13 件	1 件	1 冊	2 件	14 台
1 月	30 件	3 件	4 冊	1 件	4 台
2 月	19 件	4 件	5 冊	2 件	25 台
3 月	15 件	1 件	2 冊	1 件	4 台
合計	246 件	23 件	39 冊	29 件	232 台

・各種備品の貸出

＜利用実績＞

備　品　名	団　体　数	貸し出し数
アイマスク	7 件	延べ 162 枚
白杖	5 件	延べ 15 本
ＤＶＤプレイヤー	9 件	延べ 9 台
ＰＡ（音響装置）	4 件	延べ 4 台
テント	6 件	延べ 12 張

■ボランティアルームの管理運営

ボランティア活動の拠点として、市内 2 ヶ所のボランティアルームの管理運営を行った。

・しばざきボランティアルーム（シルバー人材センター内／立川市柴崎町 1-17-7）

・ふじみボランティアルーム（立川市総合福祉センター2 階／立川市富士見町 2-36-47）

＜利用実績＞

	しばざきボランティアルーム	ふじみボランティアルーム
4 月	8 団体	37 団体
5 月	10 団体	32 団体
6 月	9 団体	28 団体
7 月	8 団体	22 団体
8 月	5 団体	27 団体
9 月	10 団体	27 団体
10 月	13 団体	33 団体
11 月	12 団体	34 団体
12 月	7 団体	31 団体
1 月	3 団体	33 団体
2 月	9 団体	31 団体
3 月	9 団体	30 団体
合計	103 団体	365 団体

(8)ボランティア保険の加入受付

ボランティア活動を行う方が安心して活動できるよう、ボランティア保険および行事保険の相談、加入の受付をした。

＜利用実績＞

ボランティア保険	5,194 名
ボランティア活動等行事用保険	157 件 5,145 名

5. その他

(1)視察研修・取材の受入れ

他地区のボランティアセンターや運営委員会の視察研修やヒアリングを受け入れた。

・足立区社会福祉協議会
・多摩市社会福祉協議会
・町田市社会福祉協議会
・東京ボランティア・市民活動センター
・立川市立看護学校生実習
・生活者ネットワーク
・東京都健康長寿医療センター
・UR 都市機構
・株式会社日本経済研究所

(2)実習生の受入れ協力

国家資格である社会福祉士の取得を目指す実習生を積極的に受入れ、人材育成に寄与した。

○日本社会事業大学	2 名	○聖徳大学	1 名
○東洋大学	1 名	○武蔵野大学	1 名
○明星大学	1 名	○東京学芸大学	1 名
○法政大学	1 名	○帝京平成大学	1 名

合　計　　9 名（3～5 日間）

Ⅴ．平成 23 年度の市民活動センター事業を振り返って

平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災は、地震、津波、原発事故による災害が重なり、広域で甚大な被害をもたらした。特に原発事故による被害は多くの避難者を生み、立川市内にも 100 世帯 200 人を超える人々が避難してきた。発災からの 1 年は、立川市社会福祉協議会として、立川市や東京都社会福祉協議会などと連携して、被災地のボランティアセンターや、先の見えない不安を抱える避難者への支援を行った年であった。

また、年度末には、親子世帯の孤立死が立川市内で相次いだ。介護などをする側の突然死による連続死という事態がマスコミなどでも大きく取り上げられ、孤立を防ぐ取組みのさらなる推進が求められるところである。

平成 23 年度は、平成 26 年度までの 5 ヵ年計画である、立川市第 3 次基本計画が 2 年目を迎えた。この計画に付随した「福祉・保健」分野の個別計画となる立川市第 2 次地域福祉計画と、車の両輪にあたる立川市社会福祉協議会第 3 次「立川あいあいプラン 21」（地域福祉市民活動計画）では、計画の推進委員会がスタートし、地域福祉の評価などを行った。

立川市の 65 歳以上人口は 20%を超え、今後 5 年間で本格的な少子高齢化社会を迎える。また、長引く経済不況は市財政や雇用情勢に多大な影響を与えている。このような社会的背景の中で、市民活動センターたちかわが行ってきた事業について振り返ってみる。

（1）東日本大震災への対応と災害対策

前述してきたように、この 1 年は東日本大震災への対応が大きな活動の一つであった。立川市からの要請による、物資受付けのボランティアコーディネート。東京都社会福祉協議会との協定に基づいた、福島県相馬市災害ボランティアセンターや同県川内村生活支援ボランティアセンターの運営支援をするための職員派遣。避難者の孤立防止を図る訪問調査などを行ってきた。

特に、災害ボランティアセンターの運営支援に市民活動センターの職員を派遣した意味は大きかった。社会福祉協議会は、災害時に「災害ボランティアセンター」を立ち上げる役割があり、立川市の地域防災計画の中にも位置付けられている。立川市社会福祉協議会では、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを定めるべく職員プロジェクトで検討を重ねてきたが、市民活動センターの職員が被災地のボランティアセンターで得た経験をマニュアルに反映させることができた。

その他、立川市総合防災訓練での、被災地支援を生かした災害ボランティアセンターの啓発や、発災時に、立川駅周辺に帰宅困難者への対策会議である、立川市駅前滞留者対策推進協議会への参画など、災害対策を進めた。

首都圏でも、いつ大規模な地震が起きてもおかしくない状況である。引き続き立川での発災に備える災害対策を進めていく。

（2）地域福祉コーディネーターの配置

「立川あいあいプラン 21」に位置づけられた地域福祉コーディネーターは、平成 22 年度より増員配置を実現した。栄町・若葉町（＝第 4 地区民協エリア）は、わかば地域包括支援センターを拠点として活動を展開。上砂町・一番町・西砂町（＝第 6 地区民協エリア）の地域福祉コーディネー

ターも、かみすな地域包括支援センターを拠点として活動した。

2 名体制となって相談件数や連絡・調整回数も大幅に増加し、増員の効果と共に地域福祉コーディネーターの存在が認知されてきた。一方で、それぞれの地区での特徴ある活動を、共通の尺度で評価するにはどうしたらよいのかという課題も見えた。これは、地域福祉コーディネーターの必要性を図る重要な課題であると捉えている。

「立川あいあいプラン 21」では、次期配置の目標を平成 25 年度と掲げている。平成 23 年度は、地域福祉推進委員会において、「地域福祉ウォッチャー」調査を行い地域福祉コーディネーター配置の効果を検証したり、作業部会を開催して配置の必要性を検討してきた。次期配置に向けて検討を進めるとともに、今後も、地域に密着した地域福祉コーディネーターの特徴を活かして活動を進めていく。

(3)運営委員によるセンター運営

運営委員は、平成 23 年 6 月に 2 年間の任期満了に伴い、7 名の方が新しく就任され多様な視点でセンターを運営してきた。

「事業推進委員会」では、ボランティア入門講座「おもしろボランティア大学」を、ボランティア活動の裾野を広げるべく進めてきた。それをさらに一歩進めて市民活動団体の課題を解決するべく、その団体と連携した企画を実施した。具体的には、活動に参加する人材を発掘したい団体の演奏会企画に合わせておもしろボランティア大学を開催し、参加のキッカケをつくるという内容であった。参加者アンケートからも好感触を得ることができ、委員会発案の新たな取組みとなった。

「団体支援委員会」は、制度改正した団体助成金事業を実施した年であり、今後はその効果を検証すると共に、多様化している市民活動の現状と課題を分析し、団体登録制度などを見直すべく検討を開始した。

「課題解決実行委員会」は企業の社会貢献活動にスポットをあてた。センターが企業とのつながりを深め、活用してもらうための手段などを模索していた。同時期に企業から「新しい寄付の仕組みづくりをしたい」との相談があった。その相談と課題解決実行委員会で検討を続けてきたこと、市民活動センターの地域コミュニティの活性化事業とを結び付け、企業の社会貢献をテーマに地域コミュニティの活性化を図る講演会を開催することができた。この講演会の影響もあり、企業数社や関係機関、市民活動センターが参加して、企業の社会貢献の勉強会を行う流れができている。

これらの新しい事業の数々も運営委員会の発案あってのことであった。今後も、運営委員によるセンター運営を継続し、市民に活用され、必要とされるセンター運営を目指していく。

(4)平成 23 年度を総括して

上記のほか、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づき総括したい。

「協働の推進」では、市民と行政との協働による運営を進めるための立川市地域学習館運営協議会への参画、自治会連合会支部単位での小学校を拠点とした地域防災訓練への参画など、市民と行政との協働に市民活動センター自身が参画する事例が増えている。

また、同じく地域づくりを推進していく地域包括支援センターとの協働にも力を入れ、各地区での小地域ケア会議への参加・協力など、協働を進めてきた。

「地域づくり」については、地域福祉コーディネーターの活動を重点的に推進して、地域福祉の推進に大きく貢献した。コーディネーター配置地区以外でも地域懇談会の開催を進め、幸町では災害時に協働できる企業のヒアリング調査を行うという新たな取組みが芽生えている。

また、地域での助け合いグループなどの組織化支援を行って、孤立化の防止につながる小地域活動を推進した。特に支えあいサロングループの増加は著しかった。

「市民活動支援」については、地域福祉コーディネーターとセンター職員が連携してボランティア活動やNPO活動など、多様な相談に対する的確な対応を行ったほか、助成事業、情報の受発信、OA機器の貸し出しなどを行ってきた。

情報発信の強化として開始した、市民活動センター★たちかわ通信学校版を市内小中学校の全世帯配布を継続した。地域との関わりが深く、将来の地域の担い手と期待される小中学校の親世代に、社会福祉協議会の取組みを伝えることを目的として発行した。

Ⅵ. 平成24年度に向けて

平成24年度は、第3次「立川あいあいプラン21」に沿って、次の活動を重点的に取組んでいく。

○地域福祉コーディネーターによる住民福祉活動の推進

配置3年目となる第6地区（上砂町・一番町・西砂町）では、ご近所で茶話会やおしゃべりが出来る居場所づくりや災害時にご近所同士が助け合えるためのしくみづくりなどに力を入れていく。配置6年目となる第4地区（栄町・若葉町）では避難所運営組織の立ち上げに関わりながら、そこでネットワークのある各分野（介護保険事業者、災害時要援護者、自治会、ＰＴＡなど）が防災活動で協働できるように働きかけたい。

○地域住民の孤立の防止

市内で連続発生した痛ましい孤立死事件を防ぐため、住民の誰もが孤立しない生活を送れるように、地域の「縁側」や「井戸端」といったたまり場、交流の場としての「支えあいサロン」活動を推進する。また、住民相互の助け合い活動などの支援も行う。

○震災対策の強化

関係団体と協働した災害ボランティアリーダー養成講座の開催、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の実施、防災懇談会の開催などを行い、発災時の備えを強化すると共に、震災対策を通じて平時の地域コミュニティをつくっていく。

○市民の主体的な学習活動の推進

ボランティア活動の入門となる講座の開催、地域、小中学校での福祉学習活動の支援を行う。

○各種委員会・協議会などへ参画しての新たなネットワークづくり

センターへの期待値の高まりと共に、各種委員会や協議会などの参画依頼が増えている。ネットワークづくりの機会として積極的に参画していく。

・地域学習館運営協議会、立川市子ども支援ネットワーク、高齢者虐待防止ネットワーク、立川市人権学習事業実行委員会、立川市交通マスタープラン会議、地域ケア会議など

以上、主な重点事業を掲げたが、運営委員によるセンター運営を土台として、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を着実に進めていきたい。

Ⅶ. 市民活動センターたちかわ平成 23 年度収支決算(概略)

（単位円）

科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
会費収入	2,190,000	2,263,150	△73,150
寄付金収入	4,051,000	4,104,628	△53,628
立川市補助金収入	15,402,000	15,402,000	0
東社協補助金収入	5,125,000	5,125,000	0
立川市受託金収入	13,224,000	13,225,000	△1,000
事業収入	311,000	440,920	△129,920
共同募金配分金収入	2,460,000	2,460,000	0
雑収入	1,089,000	1,335,543	△246,543
経理区分間繰入金収入	450,000	450,000	0
経常活動資金収入計	**44,302,000**	**44,806,241**	**△504,241**
人件費支出	43,433,000	41,542,880	1,890,120
事務費支出	3,959,000	3,439,988	519,012
事業費支出	6,244,000	5,145,803	1,098,197
共同募金配分金支出	2,460,000	2,460,000	0
助成金支出	3,130,000	2,356,080	773,920
経理区分間繰入金支出	127,000	126,890	110
経常活動資金支出	**59,353,000**	**55,071,641**	**4,281,359**
経常活動資金収支差額	**△15,051,000**	**△10,265,400**	**△4,785,600**

1　収入について
　＊事業収入は、NPO ガイダンス、貸出し機材の利用料等
　＊雑収入は、夏！体験ボランティアの参加費、実習生の受入謝礼等
2　支出について
　＊人件費支出は、正職員５名、事務職員３名分
　＊事務費の主な支出は、運営委員旅費、市民活動センターたちかわ通信の郵送代等
　＊事業費の主な支出は、NPO 実務講座の講師謝礼や機材リース料等
　＊共同募金配分金支出は、市民活動センターたちかわ通信作成費等
　＊助成金支出は、市民活動センターたちかわ助成事業、支えあいサロン助成金等

３章　資料

Ⅰ．平成 23 年度登録団体

各団体の詳細は、市民活動センターたちかわのホームページをご覧ください。

URL：http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/

○障害のある人や高齢者、医療に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 アラノンジャパン	お酒の問題に影響を受けた家族や友人のグループ
EA かるがも愛の家族立川	人間関係に適応していく能力の回復を目指すグループ
いろとりどり	摂食障害の回復を望む女性を支援する活動
いろりん	障害当事者によるリサイクルショップ経営
エクセルシオボランティアグループ	高齢者施設内で、自主運営のお店を開いているグループ。
音声ガイドを楽しむ会 （バリアフリー映画会）	障害者・高齢者のための音声ガイド付きの映画上映会
ガイドヘルプサービスあい	障害のある方のための移動支援・送迎
片麻痺ネットワーク	パソコン教室の実施
聞き書きボランティア	高齢者の話を聞き、記録し小冊子にして贈る活動
きずなの会　東京	高齢者や障害のある方への生涯支援
ぐる～ぷ　あゆみ	障害のある子どもたちのために布の絵本や遊具の製作
クローバーの会	聴覚障害のある方の理解と手話技術の向上
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ	高齢者・障害者への介護保険サービスや自立支援サービス事業等
国立病院災害医療センター ボランティアの会	外来患者の受付・案内サポート
特定非営利活動法人　こぶしの会	知的障害のある方が働く場
三多摩市民後見を考える会	成年後見制度の学習と啓蒙・普及活動
Js　club（ジェイズクラブ）	障害のある方対象のアウトドアメンバーズクラブの運営
特定非営利活動法人　しらゆり	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 自立生活センター立川	障害のある方が自分らしく生活するためのピア支援活動
特定非営利活動法人 SPORTS・ACT　LaLaLa 柏	知的障害のある方が働く場
ダウン症児の家族の会 「たっちっちの会」	ダウン症児の家族同士による情報交換や悩み相談

たすけあいワーカーズ　パステル	高齢者、障害のある方、子どものいる家庭へ有償家事援助サービス提供
立川在宅ケアクリニック ボランティアさくら	ホスピスケアを受けている患者やその家族のサポート
立川市視覚障害者福祉協会	視覚障害のある方自身による社会参加推進活動
立川市肢体不自由児・者父母の会　たつのこ	肢体不自由児とその親のための交流活動
特定非営利活動法人 立川市障害者後援会	身体・知的・精神障害のある方への支援と理解を広める活動
立川市聴覚障害者協会	聴覚障害のある方同士の親睦や、障害理解を広めるための活動
立川失語症さくら会	脳卒中や交通事故の後遺症者の回復支援活動
立川市手をつなぐ親の会	市内在住の知的障害児・者の福祉増進と援助活動
立川市手をつなぐ親の会 スマイルくらぶ	知的障害のある子どもたちの放課後や余暇活動
立川手話こぶしの会	ろう者との交流や手話技術の向上、ろう者の問題を共に考える
立川手話友の会	日本手話とろう文化をろう者から学び理解を深める
立川市朗読サークル「こえ」	視覚障害のある方のために録音テープや CD を製作
立川精神障害者家族会 （立川麦の会）	精神障害のある方が安心して住み続けられるまちづくり活動
立川点字サークル	視覚障害のある方のための点訳活動
立川福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人　立川マック	アルコール依存症回復のためのプログラム活動
特定非営利活動法人　たんぽぽ	障害のある方が働く軽食・喫茶店
特定非営利活動法人 地域福祉サービス協会	高齢者・障害者が地域で暮らすための助け合い活動
中途失聴・難聴者 「つばさの会」立川	高齢者や聴覚障害のある方同士の交流の場
地域デイサービス　テイクオフ	知的障害のある方の余暇活動の場
東京立川断酒新生会	仲間と共に酒害からの回復を目指すグループ
ボランティアグループ“木苺”	柏地域サービスセンター(高齢者デイ)でのボランティア活動
特定非営利活動法人　MeTHoD	精神障害者グループホームの運営
ユニベールボランティア東京	高齢者による高齢者のための話し相手活動
ラッキークローバー	知的障害児を持つ家族として余暇活動や勉強会を開催

○こどもや子育てに関するグループ

団体名	活動内容
With ママ	東日本大震災の子育て支援のためのフリーマーケット
エル・ソレイユ	「優しい時間」シリーズの企画展開
おはなしたまご	読み聞かせのグループ
親子で学ぶサークル 『ハーモニー』	講師を交えた英語、体操、リトミック等の活動
学校ボランティアサークル 学ボラの会	富士見町を中心とした学校支援ボランティア
特定非営利活動法人 教育支援協会東京第二支部	小学生を対象としたアフタースクールの運営
ぐる～ぷ遊楽子	子ども向けのお話会の開催や布絵本作成
子育ていれかわりたちかわり	子育てサークルや支援団体のネットワーク活動
子育て支援ボランティア ミニトマの木	子育て支援、見守り保育ボランティア
市民型ソーシャルワーカー ほっとほっとたちかわ	傾聴を中心にした子どもと家庭のための訪問支援活動
特定非営利活動法人市民共同学習プロジェクト子どもひろば	子どもが自分を守る力をつけるための出前講座や不登校児支援
社会教育団体 MOI	音楽療法を通した子育て、自主教育、仲間づくりの活動
すくすくフォローグループ	小さく生まれた子と親への支援活動
スマイル	若葉町での親子グループ活動
立川家庭教育を考える親の会	子どもの自立を目指した家庭教育の親の勉強会
特定非営利活動法人 立川子ども劇場	子どもたちに演劇・音楽・芸術・遊び等の文化的体験を提供
立川プレーパーク	自分のやりたい遊びを思いきりできる冒険遊び場の運営
立川マザーズ	ひとり親家庭の母子・父子等の交流親睦活動
たまがわ・みらいパーク 企画運営委員会	子どもを中心とした遊び場・学び場の運営
ちるちる	0 歳～1 歳児の子を持つ母親たちの「こどもの時間」上映会
特定非営利活動法人 東京賢治の学校	シュタイナー教育をベースにした自主学校
和みアカデミー	幼児から高齢者を対象に自由な学びの場を提供
社会福祉法人　西立川児童会館	18 歳までの子どもを対象にした自由な遊び場活動
はぐはぐ	子育て中の親が語り合い、子どもたちが安心して遊べる居場所活動
パドマ	子ども連れで参加可能なヨガサークル
ボーイスカウト立川第 7 団	子ども達の健全な成長のために指導者のもとにスカウト活動

Body and Soul	思春期の子どもたちの体と心について必要な情報を届ける活動
ママの杜	母親のための情報交換、講座開催
夢たち応援団	「夢たち　子ども 21 プラン」の推進、バックアップ

○環境に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人『キャップの貯金箱』推進ネットワーク	ペットボトルキャップを回収・換金し NGO へ寄附
こどもエコクラブ	小中学生を対象とした清掃活動・野外体験活動
特定非営利活動法人 集住グリーンネットワーク	緑豊かなまちづくりのための環境教育や雑木林保全活動等
砂川・鳴く虫愛好会	「鳴く虫」など昆虫の生息区域を確保し保存していく活動。
たちかわエコパートナー	清掃活動や環境学習講座の開催
立川かんきょう市民の会	親子の自然体験学習や環境イベントの実施
立川市食器再使用推進協議会	環境に配慮した生活知識の普及啓発
玉川上水の自然保護を考える会	玉川上水の自然保護活動
特定非営利活動法人 バイオマス産業機構	CO2 削減にかかわる環境整備事業・社会教育・人材育成
特定非営利活動法人 武蔵野の里作りクラブ	昭和記念公園内で武蔵野の農村風景再現と体験活動

○文化・スポーツに関するグループ

団体名	活動内容
石田倉庫の住人	アート・クラフトの体験教室や地域イベント開催
エムズスタイル	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使ってのエクササイズ
特定非営利活動法人 円十字協力	氣功教室を通じて、アジアの学生を支援
歌扇会	福祉施設等で歌や踊りのプログラム提供
絆―kizuna―	高校生会員による和太鼓の講習会、交流会、演奏活動
キネマ たちかわ	優れた映画の自主上映サークル
キューティー・コア	誰もが参加できるエクササイズ活動
シネマ 16	定例映画会・映写機学習会
シャンソンクラブ・りら	高齢者施設や地域のイベントでシャンソンなど広める活動
シャンティ	女性の身体を考えたヨガサークル

特定非営利活動法人 SPORTS・ACT	地域スポーツの環境整備と障害者の地域支援事業
すみれ寮ぽれぽれコンサート	障害の有無を問わず楽しめるコンサートの企画実施
そば打ち友の会	そば打ち技術の習得と福祉施設などでのそば打ち体験
ダイエットクラブ	身体を動かす機会の少ない人に運動不足解消の機会を提供
立川親と子のよい映画をみる会	良質な映画の定例上映会
立川市テニス向上委員会	テニスのマナーや技術の無料レッスン提供
立川市ラジオ体操協会	ラジオ体操を通じた健康で明るい地域社会づくり
立川まちおん	ストリートミュージシャンを主としたライブ、コンサートの実施
多摩 fun アート	重度障害者の臨床美術に関する創造活動
多摩ミュージック 21	子ども、障害者、高齢者を対象に良質で安価なコンサートを開催
ダンスサークル　ストリート	高齢者の健康維持や多世代交流を図る活動
南京玉すだれアーチストの会	南京玉すだれの習得と普及活動
虹の音楽隊	高齢者や児童施設、地域イベントでの演奏活動
ハワイアングループ ―WAIPIO PLUS―	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
プルメリア・フラグループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
文化・芸術いきいきネットワーク (CAN)	高齢者施設へのアクティビティの提供と支援
本町	介護施設、幼稚園でのお囃子、演奏活動
ミュージック・トレイン	乳幼児やその家族を対象にしたコンサート活動
みんなの展示場 中村洋久絵画館	絵画や手作り作品の無料展示、観覧
八舞て会	高齢者施設や地域イベントで日本舞踊、民謡踊りを広める活動
和太鼓　趣	地域のイベントで和太鼓の演奏、交流

○多文化共生に関するグループ

団体名	活動内容
立川国際友好協会（TIFA）	在住・在勤外国人のための日本語教室
特定非営利活動法人 たちかわ多文化共生センター	外国人のための相談受付や多文化共生イベントの実施

○地域づくり・まちづくりに関するグループ

団体名	活動内容
愛犬パトロールグループの会	愛犬を伴った防犯活動や地域環境美化活動
あすなろ洋裁グループ	福祉施設等の依頼に応じ衣類や小物の作成
キャットニップ	地域ネコの保護・管理
グッドネイバー　西砂・一番	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
ぐるーぷ「たけのこ」	使用済み切手の整理
公共施設に市民交流喫茶室をつくる会	市民交流喫茶を作る活動
特定非営利活動法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会	コミュニティレストランや地域の居場所づくり事業
栄町地区 グッドネイバーをすすめる会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
栄町猫対策委員会	地域ネコの保護・管理
特定非営利活動法人 さんきゅうハウス	路上生活者への炊き出し、物資配布等の支援活動
しおりの会	海外の子どもたちに千代紙の作品を送る活動
シニア倶楽部	高齢者を対象にした相談・講習会の実施
柴崎町地区 グッドネイバー推進協議会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民団体発行の通信やミニコミの保存・収集公開活動
市民の学習・活動・交流センターシビル	市民の学習や活動・交流を支援する活動
市民のひろば　憲法の会	憲法集会や社会問題に関する学習会の開催
特定非営利活動法人 立川教育振興会	教育・文化に関する講演会開催や学校支援ボランティアの推進
立川市災害ボランティアネット	関係機関と連携した防災、減災活動
立川地域猫の会	飼い主のいない猫のトラブルをなくす活動
立川よいと祭り実行委員会	市民相互のふれあいと郷土意識向上を目的とした祭の実施
東京にしがわ大学	誰もが参加できる学びの場
西砂・一番市民活動ネットワーク	つながる場・オープンガーデンづくり
ハーブを楽しむローズマリー	ハーブについての学習会、料理教室
福祉団体SSLC（安全・安心を身近に学び市民活動を推進）	身近な安全・防災について学ぶ場
富士見町団地管理組合法人 見守りネット・結サポートセンター	富士見町団地居住者同士の見守り、支えあい活動
フリー談話室さぼう	誰もが利用できる談話室の運営

ふるさと復興支援 net.again	コンサートを通じての被災者支援活動
ほっとステーション　砂川口前 さくらんぼ保育園	保育園の運営や親子教室の開催
友遊会	メンバーの特技を活かした交友活動
ワークセンター　まことくらぶ	知的障害のある方が働く場
若葉町の福祉を考える会 グッドネイバー若葉	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
若葉町ボランティアグループ	高齢になって外出が少なくなった方たちの仲間づくり

○いろいろな相談事業に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人　市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民活動団体や個人へ向けた情報誌作成や活動支援
特定非営利活動法人 生活設計支援センター	年金・保険・相続・資産運用等の相談事業やセミナー開催
特定非営利活動法人 「育て上げ」ネット	若者就労支援事業
たちかわパソコン倶楽部	初心者を対象にした無料相談会や福祉施設での講座実施
チャイルドラインたちかわ	18 歳までの子どもを対象にした電話相談活動
パソコン相談員研究会	初心者を対象にした相談・講習会の実施
特定非営利活動法人　より良い住宅環境作りを支援する会	新規住宅購入や健康住宅を考える講座の実施等
特定非営利活動法人　ライブリー	家庭内の問題についてのカウンセリングや法務相談事業

Ⅱ．平成 23 年度登録サロン

（高）は高齢者中心のサロン、（子）は子育て中心のサロン、無印はその他

町名は主な活動拠点を指す。

サロン名	活動内容
親子で学ぶサークル『ハーモニー』（子）/高松町、幸町、西砂町	読み聞かせ、歌、自由遊び、講師を交えた「わらべ歌」講習、遠足等
スキップママ（子）/富士見町	体操・料理・クラフト・子育て講座開催等
パドマ（子）/富士見町	全世代を対象とし、ヨガ、情報交換
チーム若葉（子）/若葉町	子育てサークル（ヨガ）
ママの杜午後2時の会（子）/上砂町	バランスボール等
スマイル（子）/若葉町	おしゃべり・茶話会
はぐはぐ（子）/柏町	みんなで子育てについて話す会

マロンキッズ(子)/砂川町、柴崎町	多胎児、親のサークル
子育てママテニスサークルTC(子)/砂川町	茶話会テニス・読み聞かせ等
テニスサークルマムマム(子)/錦町	茶話会
けやきサロン（高）/若葉町	一人暮らし高齢者の話し相手、相談。食事会、講習会等
さき織りボランティアグループひめりんご(高)/若葉町	さき織りを中心とした交流
あすなろ会(高)/富士見町	地域の方と知的障害者作業所とのゲートボールを通しての交流
サラおしゃべり会(高)/若葉町	茶話会や企画の開催
若葉町ボランティアグループ(高)/若葉町	ミニデイサービス
さかえ友悠クラブ(高)/栄町	茶話会。週代わりで昼食会、語らい、カラオケ、囲碁、ビデオ鑑賞、手芸
はなみずき(高)/幸町	茶話会
健康麻雀友の会(高)/若葉町	健康麻雀
ＭＧ会（高）/若葉町	健康麻雀
ハッピーサロン（高）/若葉町	茶話会
松中団地みんなのサロン会(高)/一番町	話し合い、茶話会
いきいきサロン(高)/栄町	健康体操
福祉あすなろ会(高)/富士見町	散歩及び切手整理等
さかえサロン(高)/栄町	ヨガ
ダイエットクラブ/富士見町	ソフトバレー、交流企画等
さゆりの会(高)/幸町・砂川町	ストレッチ体操
ワークアウトFor.Mrsの会/錦町	エアロビ・親睦会等
たんぽぽの会(高)/泉町	太極拳、お茶会
麦(高)/西砂町	茶話会・手芸、お菓子作り
じゅんじゅん(子)/曙町	アフリカダンス
あら七あらっ八(高)/高松町	茶話会、おしゃべり
ひだまりサロン(高)/上砂町	おしゃべり、軽い体操、音楽会
健康体操サークル(高)/高松町	健康体操と学習
生き生き健康体操伸和会グループ(高)/栄町	健康体操、お話
ひまわりの会(高)/富士見町	書道を通した身体障害者のリハビリとケア

編み物サークル(高)/若葉町	編み物
コスモス体操会(高)/若葉町	健康体操
健康体操スロー会(高)/高松町	健康体操
すみれの会(高)/富士見町	健康体操
上砂体操クラブ(高)/上砂町	健康体操
熟年男性料理の会(高)/幸町	料理
ご近所サロン　コスモス（高）/柏町	テーマを持った茶話会
親ワザ学びの会「ナチュラ」（子）/砂川町・柴崎町	親業の講習会や自主学習会
ダンデェライオン（子）/若葉町	親子サークル
わかば麻雀くらぶ(高)/若葉町	健康麻雀
ヨガサークル　Namasute(子)/柴崎町	健康づくりのためのヨガ
BBP(高)/富士見町	パソコン勉強会
楽描き倶楽部・立川/富士見町	総合創作
みんなのサロン(高)/富士見町	健康体操、茶話会、食事会
麻雀クラブ花ショーブ(高)/高松町	健康麻雀
創年クラブ(高)/上砂町	体操、脳トレ、茶話会
ヨーガ60(高)/錦町	60代の女性を中心とした初級ヨガ
こんぴら体操クラブ(高)/砂川町	ウォーキング
HOTサロン(高)/高松町	体操、ボランティアによる余興、おしゃべり
桜(高)/栄町	健康体操
南部健康サロン(高)/栄町	健康体操
いずみ会いきいき体操サークル(高)/泉町	健康体操
楽々太極拳(高)/一番町	太極拳、茶話会
曙一西健康体操クラブ(高)/曙町	健康体操
エステート・暮らしの相談室(高)/一番町	喫茶、簡単な修理・家事のお手伝いを行う
上砂スマイル(高)/一番町	トリム体操
パレス会(高)/曙町	茶話会、脳トレ体操、手芸
プラザシティ健康体操クラブ(高)/曙町	健康体操
上砂たのし会(高)/上砂町	踊り、おしゃべり、唄、お茶会
HOPE子育てサロン幼児英語教室（子）/曙町	情報交換、遊びの場提供

スマイル･ママ(子)/高松町	親子でできる体験
生き生きすみれグループ(高) /若葉町	健康体操
whoopee(子)/柏町	お茶会、子どもの英会話、誕生会、エクササイズ
寅の子会(子)/幸町	情報交換、体操など
シネマ通りいきいきサロン（高） /高松町	地域における世代間交流
トリム体操さくらクラブ(高) /一番町	健康維持、体力増進のための体操
えはなしょサロン(子)/曙町	親子を対象のフラワーアレンジ、絵画、書道など
高松おしゃべりサロン(高)/高松町	茶話会
キラキラサロン(高)/砂川町	茶話会
よつ葉グループ（高）/若葉町	健康体操
こんぴらサロン（高）/上砂町	茶話会、編み物
すまいるサロン（高）/曙町	食事会
上砂いきいき（高）/上砂町	健康体操
シャンティ（子）/富士見町	ヨガ、情報交換
檜山さんちのえんがわ（高）/上砂	茶話会・交流会
まんまるヨガ部（子）/若葉町	ヨガ、情報交換
ハッピー五月会（高）/富士見町	健康体操
ほのぼの（高）/砂川町	茶話会、野外活動
上砂フレンド（高）/上砂町	生き生き体操
パンプキン（子）/幸町	子育てサークル
杜のつどい（高）/若葉町	体操、茶話会
なかよしサロン（高）/栄町	食事会
たちかわまみーくらぶ（子） /富士見町	茶話会
テュットカフェ（子）/富士見町	茶話会、子育て広場、ハンドメイド
らくらくヨガ（高）/若葉町	ヨガ